

**ブラザーコミュニケーションレポート
2019**

At your side.

Contents

- 01 “At your side.” story
 - 03 “At your side.”をカタチにして
 - 05 ブラザーの歩み
 - 07 ブラザーの今
 - 09 ブラザーの目指す姿
 - 11 ブラザーの中期戦略「CS B2021」
- 13 ビジョンと進捗
 - 13 ステークホルダーの皆さまへ
 - 15 財務・非財務ハイライト
- 17 事業別概況
 - 18 プリンティング・アンド・ソリューションズ事業
 - 21 パーソナル・アンド・ホーム事業
 - 23 マシナリー事業
 - 26 ネットワーク・アンド・コンテンツ事業
 - 27 ドミノ事業

ブラザーは“*At your side.*”の精神で 持続的な価値創造を目指します

あらゆる場面でお客様を第一に考え、優れた価値を創造し、迅速にお届けする。

“*At your side.*”という言葉には、そんなブラザーグループの思いが込められています。

いつの時代も、ユニークでオリジナリティーのある製品やサービスの提供を目指し、

世界中のお客様が実現したい新しいワークスタイルやライフスタイルを応援していきます。

29 価値創造を支える取り組み

- 30 商品開発
- 31 技術力
- 32 人材育成
- 33 グローバル体制
- 34 柔軟な対応力／パートナーとの連携

35 環境／社会／ガバナンス

- 35 環境への取り組み
- 37 社会への取り組み
- 39 コーポレートガバナンス
- 42 役員一覧

43 会社概要

- 43 会社情報
- 44 グループ拠点
- 45 技術と製品の歴史

“At your side.”を カタチにして

ブラザーグループは、モノ創りを通して、オフィス、工場、家庭などにおける幅広いお客様のニーズにお応えしてきました。

私たちはこれからも、あらゆる場面でお客様第一を考える“*At your side.*”の精神で、お客様の声に耳を傾け続けます。そして変革を恐れず、時代や環境の変化に対応してきたブラザーのDNAを伝承することで、新たな価値を生み出していきます。



モノクロレーザー複合機



カラーレーザー複合機



インクジェットプリンター



刺しゅう用ミシン



モバイルプリンター



ラベルライター



スキャナー



カッティングマシン



業務用通信カラオケシステム



デジタル印刷機



コーティング・マーキング機器



レーザーマーカ



減速機



歯車



工業用ミシン



工作機械



ガーメントプリンター

ブラザーグループの源流は、1908年、ミシンの修理・部品製造を行う「安井ミシン商会」の設立にさかのぼります。明治から大正にかけて、日本のミシン市場は欧米メーカーに独占されていました。のちに「日本ミシン製造」（現在のブラザー工業）を創業する安井兄弟は、家庭用ミシンの国産化を目指す中で1928年（昭和3年）に「麦わら帽子製造用環縫ミシン」*を製造しました。このミシンはドイツ製のミシンと比較しても耐久性が高いと評判になりました。また、兄弟が協力してミシンの製造に挑んだことから商標を「ブラザー」としました。

*日本機械学会によって、「日本の機械技術の発展史上、重要な成果を示すもの」と評価され、2007年「機械遺産」第15号に認定されている。



麦わら帽子製造用環縫ミシン

ブラザーの歩み

創業以来、ブラザーは時代のニーズに合わせて事業を変化させてきました

1908年に、ミシンの修理業から始まったブラザーグループ。

その後、独自の技術開発に注力し、蓄積したコア技術を駆使して事業の多角化を推進するとともに、常に新しい市場を開拓し続けることで成長してきました。

あらゆる場面でお客様を第一に考えたユニークでオリジナリティーのあるモノ創りが成長の原動力となっています。



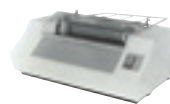
1982年
電子パーソナル
プリンター



1980年
電子オフィス
タイプライター



1976年 電子ミシン



1971年 高速ドットプリンター



1961年
欧文ポータブル
タイプライター



1936年
工業用本縫ミシン



1932年
家庭用ミシン



1928年
麦わら帽子製造用環縫ミシン

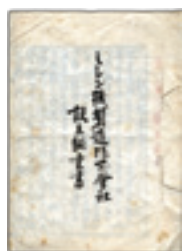
売上収益推移

2015年度以前は日本基準の売上高



創業～1940年代 輸入産業を輸出産業へ

ブラザーのルーツは、安井兼吉が1908年にミシンの修理業を開業したことにさかのぼります。その後、兼吉の息子である正義が家業を継ぎ、「ミシンの国産化を実現し、輸入産業を輸出産業にする」という大志を抱きました。足がかりとして麦わら帽子製造用環縫ミシンの製造を手がけ、1932年に家庭用ミシンの誕生させました。



設立趣意書

1960年代 海外市場への進出

ミシンの輸出から始まったブラザーの海外事業は、1954年にアメリカに、1958年にはアイルランドに現地法人を設立し、本格的にスタートしました。その後も欧米を中心に世界各国に販売拠点を拡大し、1968年にはイギリスの大手ミシンメーカーを買収しました。

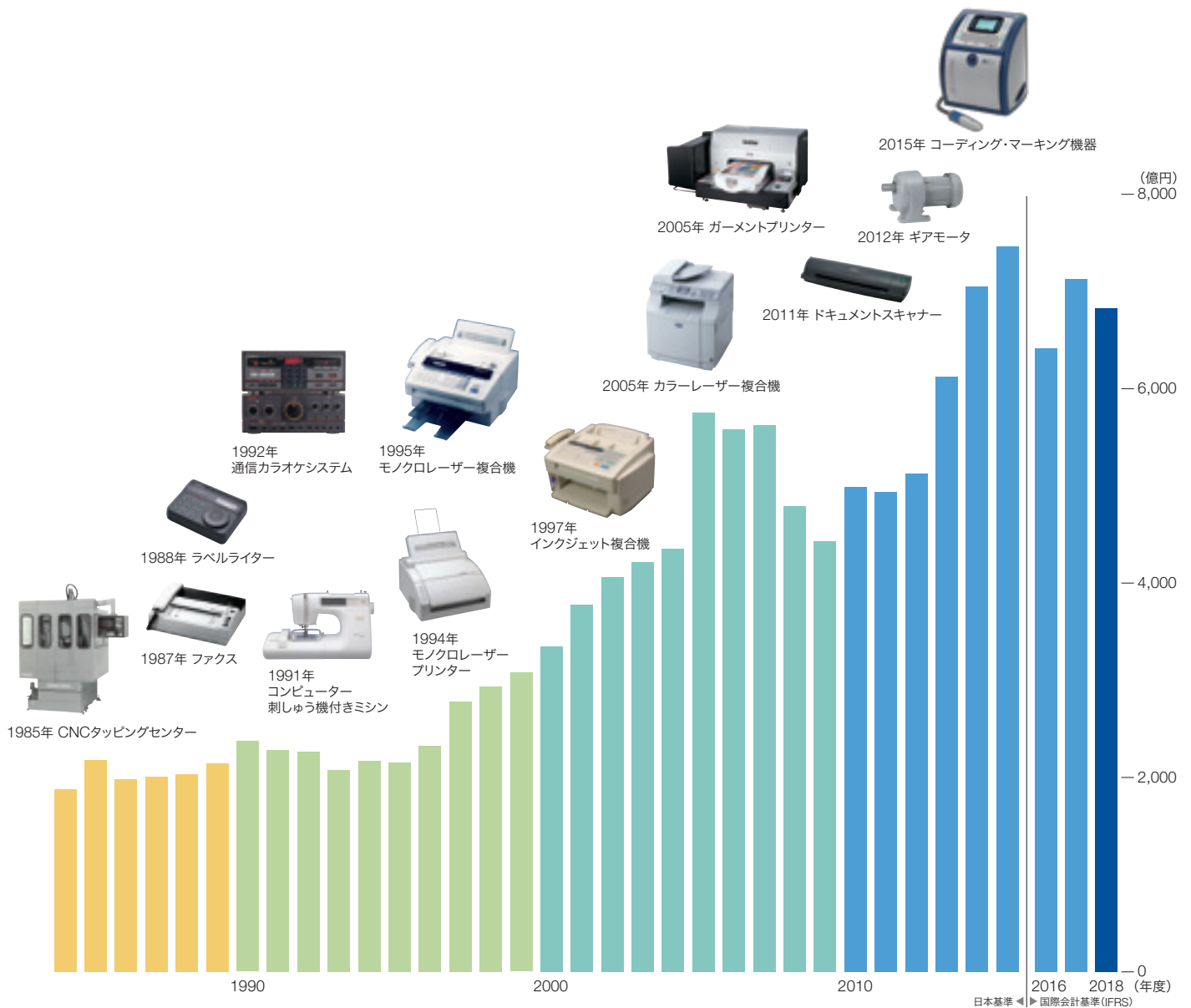


1950年代 コア技術を応用した多角化の推進

1947年に念願のミシンの輸出を果たした安井正義は、1950年アメリカのミシン市場を視察し、事業の多角化を決意。編機に加え、ミシンで培ったモーター技術などを生かして洗濯機や掃除機、扇風機などを開発しました。同じころ、ポータブルタイプライターの開発にも着手。活字の製造を研究するとともに、ミシンや編機の開発で培ったプレス加工技術を応用し、製品化を実現しました。

1970年代 高速ドットプリンターの開発と電子化の推進

コンピューターの普及による情報化が進む中、1971年にアメリカのセントロニクス社と共同で小型コンピューター向けの高速度ドットプリンターを開発しました。その後、電子制御技術と印字ヘッドの自社開発にも取り組み、その技術はのちのファクスやプリンターに継承されました。また1970年代は各種工業製品の電子化が進み、ブラザーもミシンやタイプライターなど既存製品の電子化を推進しました。



1980年代 情報通信機器分野への進出と産業機器事業の拡大

1982年にはサーマル印字技術を搭載した電子パーソナルプリンターを開発し、その技術は現在高いシェアを誇るラベルプリンターに応用されました。1980年代後半には、サーマル式ファクスやレーザープリンターなども開発し、情報通信機器分野へ進出しました。また1985年にはタッピングマシンにNC装置を組み入れたCNCタッピングセンターを発売し、産業機器事業が飛躍的に発展しました。

1990年代 SOHO市場の開拓と通信カラオケ事業への進出

自宅などをオフィスとして個人や少人数で仕事をするSOHOと呼ばれるワークスタイルに対応したファクスや小型複合機を開発し、この市場でのパイオニアとなりました。一方、自社で培ったコンテンツ配信技術やインフラを生かして、1992年に通信カラオケ事業にも進出しました。



2000年代 グローバル展開と事業一貫経営

1990年代半ば以降、中国への積極的な生産移管と販売体制の再編成に取り組んだことで、2000年代にはグループ体となった事業展開が軌道に乗っていきました。その後ベトナム、フィリピンでも生産がスタートし、事業ごとに複数の拠点を持つ生産体制を確立しました。



2010年代 事業ポートフォリオの強化とBtoB事業の拡大

リーマンショックを乗り越えた2010年代、事業ポートフォリオの強化を進めてきました。プリンティング事業においては、変化しつつある事業環境で勝ち残るため、さらなる収益力強化を図り、マシナリー事業では、事業安定化のため新顧客開拓を推進しています。また、2015年にはM&Aによりドミノプリンティングサイエンスをグループ傘下に収めるなど、BtoB事業の拡大を進めています。

ブラザーの今

世界各地のニーズに合った 製品やサービスをグローバルに 提供しています

ブラザーグループは、1954年にアメリカの販売会社設立以降、グローバルな事業展開を進めてきました。

現在、開発・生産・販売などそれぞれの役割を最適な地域で分担するため、40以上の国と地域に生産拠点や販売・サービス拠点をもち、海外売上比率は全体の8割を超えています。

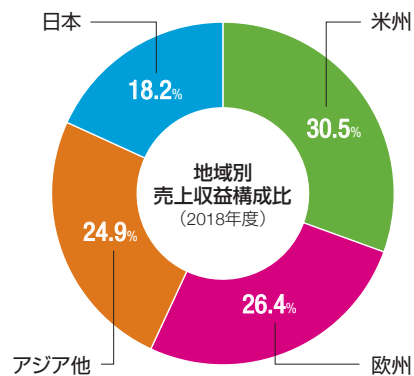
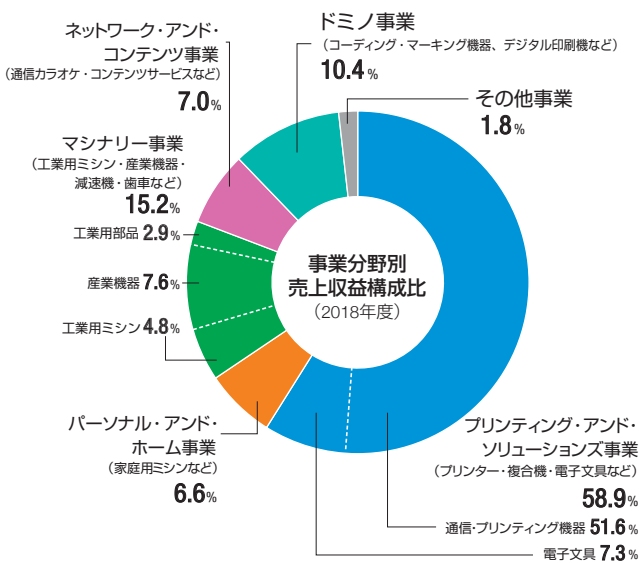
各地のニーズに合った事業活動を世界規模で展開するとともに、生産・開発力、人材など、事業の成長を支える経営基盤のグローバル力も推し進めています。

(2019年3月31日現在)

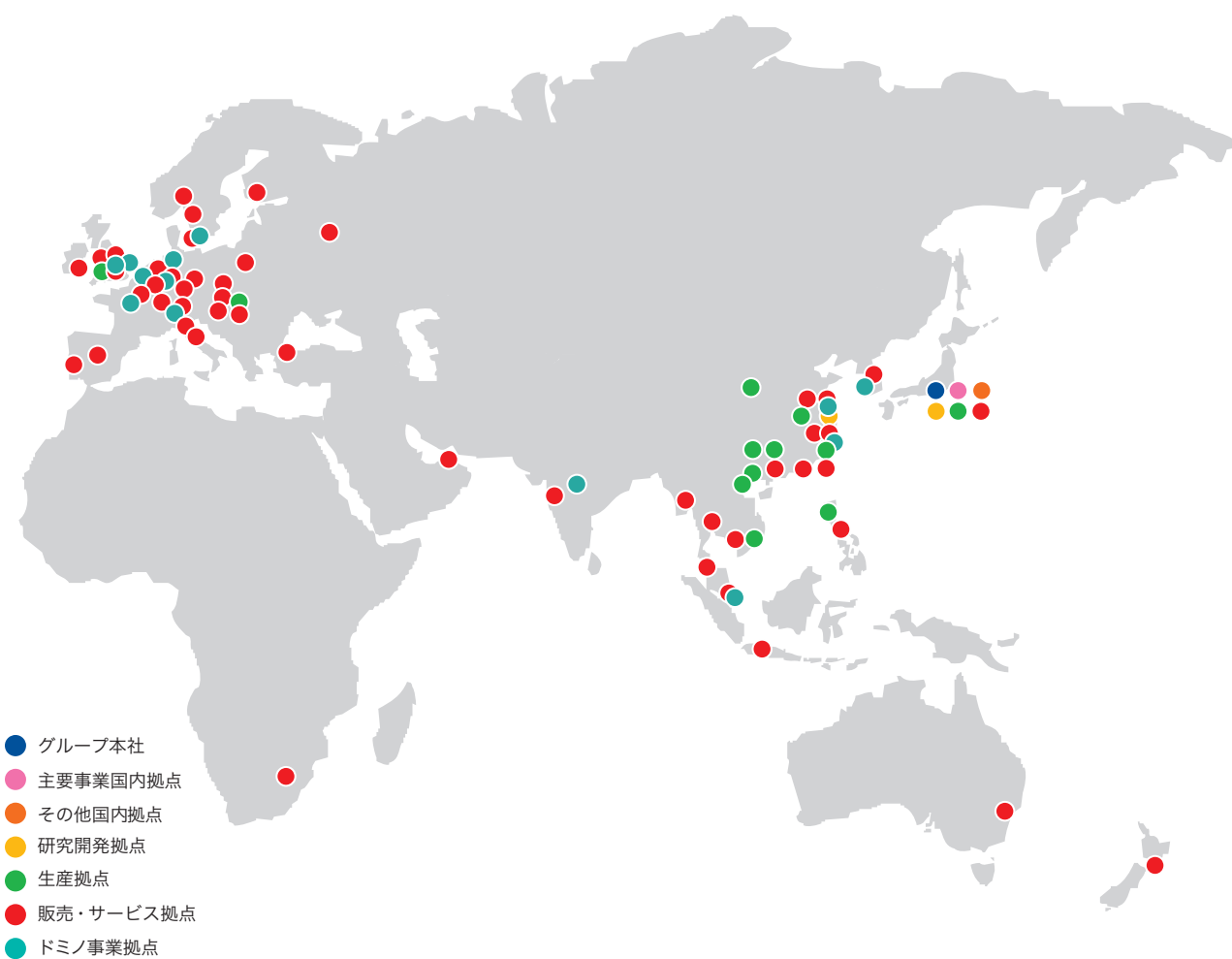


プリンター、産業機器など幅広い事業領域

バランスのとれた地域別売上収益比率

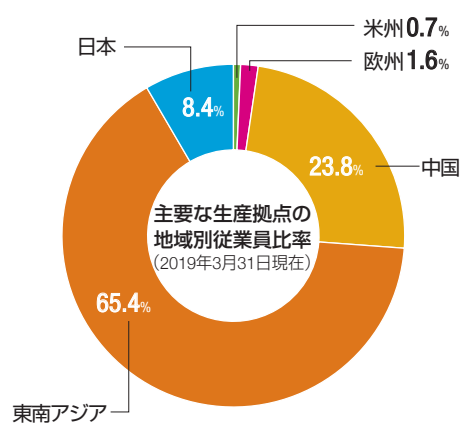
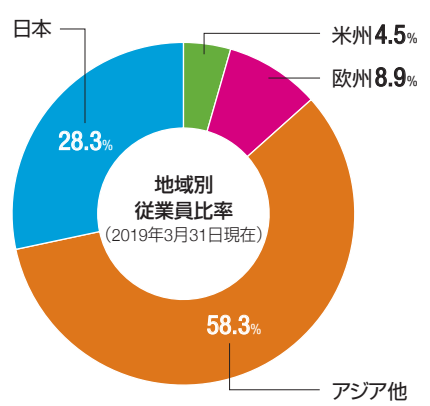


連結売上収益(2018年度) **6,840**億円



日本以外で働く従業員が約7割

東南アジアが6割を超える生産体制



連結従業員数 (正社員のみ) **37,769人**

生産拠点従業員数 (正社員のみ) **21,898人**

ブラザーの目指す姿

お客様の声と、社会からの期待の変化を 事業の成長機会として捉え、 未来永劫の繁栄を目指します

ブラザーグループは、すべての活動の礎である「ブラザーグループ グローバル憲章」に示された、事業の成長と社会的責任の遂行により、お客様を第一としたすべてのステークホルダーとの長期的な信頼関係を構築してきました。

その中でブラザーは、国連総会において採択された「持続的な開発目標 (SDGs)」に掲げられている17のゴールの達成に貢献するために下記の4つの項目に優先的に取り組み、事業を通じた社会価値をグローバルに創出するとともに、環境・社会・ガバナンス (ESG) を重要視した経営を推進します。

4つの優先項目および関連するSDGsの目標

お客様が幸せを感じるイノベーションを、
従業員が創造力を発揮し生み出す



地球環境保全に継続的に取り組む



社会貢献活動を継続的に推進する



社会要請に迅速に答えるため、
ビジネスパートナーとの協働体制を強化する



このような活動を通じてブラザーはCSR経営を進化させ、ステークホルダーとの信頼関係をさらに強化し、未来永劫に繁栄し続けることを目指します。

また、事業を通じた社会価値の創出を通じて、ブラザーグループ独自のマネジメントシステム「ブラザー・バリュー・チェーン・マネジメント」をより強化し、中長期ビジョン「グローバルビジョン21」をさらに高い水準で実現させていきます。

すべての活動の礎「ブラザーグループ グローバル憲章」

従業員の意思決定と実行に対する基本方針と行動規範から成る「ブラザーグループ グローバル憲章」(以下、グローバル憲章)は、ブラザーの創業以来のDNAを1999年に言葉として表したものです。ブラザーは、グローバル憲章をすべての活動の礎として、お客様や社会の変化、技術の進化に呼应しながら、さまざまな事業の創出・育成に取り組み、グローバルに成長を遂げました。“At your side.”なモノ創りに向けた、技術の強化と従業員一人ひとりの創意工夫を積み重ね、これからも未来への歩みを進めていきます。

ブラザーの価値を創造する「ブラザー・バリュー・チェーン・マネジメント(BVCM)」

ブラザーグループは、「お客様の声」を、企画・開発・設計・製造・販売・サービスなどすべての事業活動の原点と考え、その声にお応えするために、独自のマネジメントシステム「ブラザー・バリュー・チェーン・マネジメント」(BVCM)を構築・実践しています。お客様のもとへ優れた価値をお届けするまでの過程を、「デマンドチェーン」「コンカレントチェーン」「サプライチェーン」の3つのチェーンでつなぎ、“At your side.”の精神でこの一連の流れを進化させながら、より優れた製品・サービスをお届けしています。

お客様の声

ブラザー製品をご購入いただいた「現在」のお客様、これから手にとってくださる「将来」のお客様の声が、すべての事業活動の出発点。

デマンドチェーン(価値の選択)：商品企画・研究開発

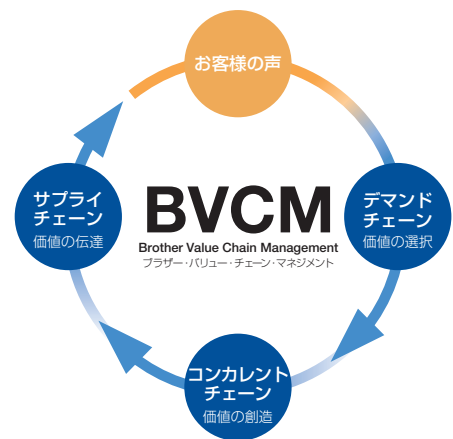
お客様のご期待やご要望を的確に分析し、製品作りに生かす。

コンカレントチェーン(価値の創造)：開発設計・生産技術

デマンドチェーンでまとめられた製品コンセプトを具体的なカタチにする。

サプライチェーン(価値の伝達)：製造・物流・販売・サービス

コンカレントチェーンで設計された製品を製造し、製品とサービスを世界中のお客様に届ける。



そして、BVCMによる価値創造を「商品開発」「技術力」「人材育成」「グローバル体制」「柔軟な対応力」「パートナーとの連携」といったさまざまな経営資源が支えています。

中長期ビジョン「グローバルビジョン21」

グローバルに事業を展開する組織として、あらゆる場面においてすべての行動がお客様第一であること。ブラザーグループはこの考え方を基本に、さらなる成長に向けた中長期ビジョン「グローバルビジョン21」において目指すべき3つの項目を掲げており、その実現のために保有するさまざまな経営資源を有効に活用しています。

「グローバルマインドで優れた価値を提供する高収益体質の企業」になる

形だけでなく価値観のグローバル化を進め、あらゆる変化に柔軟に対応し、スピーディーに変化し続けるとともに、高収益かつ強固な財務体質を築き上げます。

独自の技術開発に注力し「傑出した固有技術によってたつモノ創り企業」を実現する

差別化されたコア(核)となる独自技術や特許を保有し、お客様を第一に考えたユニークでオリジナリティーのあるモノ創りを進めます。

「“At your side.”な企業文化」を定着させる

サービスのみならず企画・開発・設計・製造などのあらゆる場面のお客様を第一に考えた企業文化を育成し、お客様から「信頼できるブランド」として認識されることを目指します。

ブラザーの中期戦略「CS B2021」

“次なる成長に向けて” 成長基盤を構築していきます



CS B2021 策定の背景

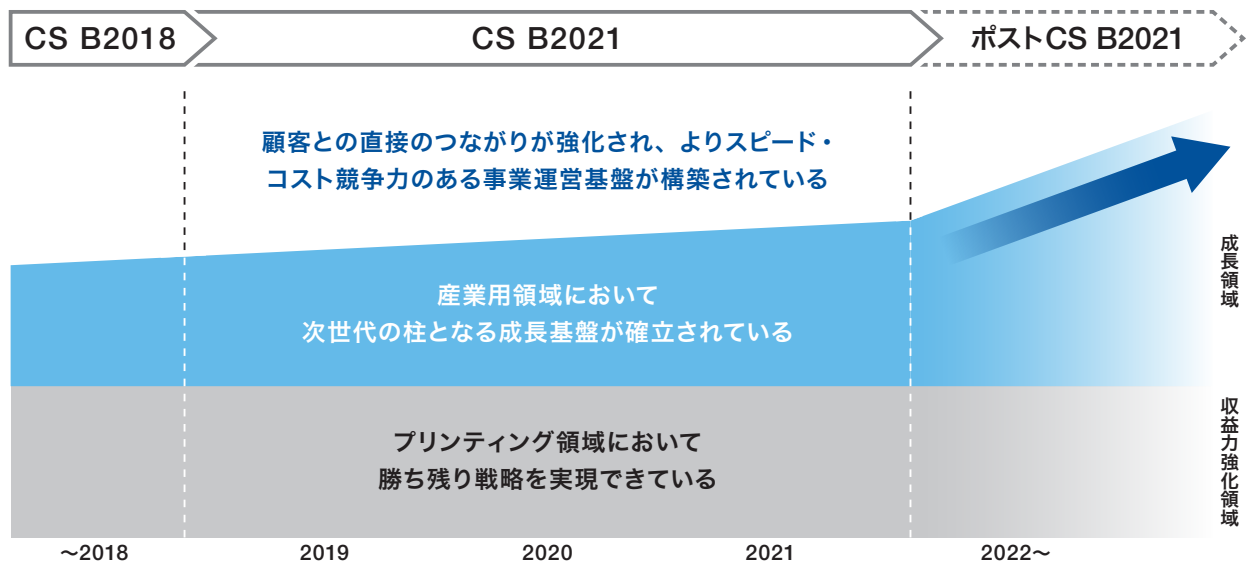
ブラザーグループは、2016年に、中期戦略「CS B2018」をスタートさせ、プリンティング領域中心の事業構成から複合事業企業体への変革を目指し、事業、業務、人財の3つの変革に取り組んできました。その結果として、プリンティング領域での大幅な収益性の改善や、産業用領域での売上成長を実現することができました。

しかしながら、プリンティング領域の事業環境は、デジタル化の進行による印刷機会減少の流れに加え、所有から利用へという顧客の購買行動が大きく変化する中で、サービスニーズが多様化するなど、より一層の変化が予想されます。また、産業用領域においては、省人化・自動化需要やトレーサビリティ・カスタマイズ需要が高まるなど、弊社を取り巻く事業環境は、今後も大きく変化し、厳しさを増していくものと認識しています。

こうした認識のもとブラザーグループでは「グローバルビジョン21」達成に向けて従来以上に踏み込んだ改革が必要不可欠であると考え、新中期戦略「CS B2021」を策定しました。

「CS B2021」は、次なる成長に向けた基盤を構築する期間と位置付け、ブラザーの強みを発揮し、経営の優先事項にフォーカスした改革を実行します。

CS B2021の位置付け



ブラザーの強み

- 柔軟性 - 時代の変化・技術の進化に合わせて、柔軟に対応し、失敗を恐れず、チャレンジし続けてきた精神
- 小回り力 - お客様の声を起点として、きめ細かく把握したニーズに合った製品・サービスを迅速に提供する対応力
- コスト競争力 - 独自の価値訴求と優れたすり合わせ技術によるコストパフォーマンスに優れた“ブラザーらしい”製品作り
- 開発・製造・販売・サービスにおける効率的なグローバルネットワーク

CS B2021 次なる成長に向けて
— 成長基盤構築 —

プリンティング領域での
勝ち残り

- 高PV※1ユーザーの獲得強化と本体収益向上による事業規模の維持・収益力の強化
- 新たなビジネスモデルへの転換加速により、安定収益確保と顧客とのつながりを強化

マシナリー・FA領域の
成長加速

- 自動車・一般機械市場強化による産業機器分野の大幅な成長
- 省人化・自動化ニーズを捉えたFA※2領域の拡大

産業用印刷領域の
成長基盤構築

- シナジー顕在化によるドミノ事業の成長再加速
- インクジェットを核としたプリンティング技術活用による産業用印刷領域の拡大

スピード・コスト競争力のある事業運営基盤の構築

- IT活用によるグループ全体の業務プロセス変革・効率化の実現
- 人財の底上げ・最適人員体制の確立による組織パフォーマンスの最大化
- 不採算・低収益事業のてこ入れ

※1 Print Volumeの略称。印刷量。

※2 Factory Automationの略称。工場でのさまざまな作業や工程を、機械や情報システムを用いて自動化すること。

CS B2021の業績目標

財務数値としては、売上収益7,500億円、営業利益750億円、営業利益率10.0%を目指します。

プリンティング領域は、厳しい事業環境が想定されますが、2018年度の規模感を維持していくことを目指します。一方、産業用領域では売上・利益の拡大を目指します。

2021年度(目標)

売上収益	7,500億円
営業利益	750億円
営業利益率	10.0%

為替前提：1USD = 105円、1EUR = 125円

CS B2021の投資方針

産業用領域のさらなる拡大、新規事業の創出・育成、インクジェット関連の設備増強に向け、M&Aも含めた成長投資を加速します。この投資枠として500億円を設定します。

マシナリー・FA領域

マシニングセンタの前後工程を中心とした工作機械への進出や周辺機器領域を拡大

産業用印刷領域

インクジェットを核としたプリンティング技術を結集し、既存事業からの染み出しにより、周辺領域を拡大

ステークホルダーの皆さまへ

グループすべての従業員が 一丸となって優れた価値を 迅速に提供していきます

中長期ビジョン「グローバルビジョン21」の実現 を目指して

ブラザーグループは、あらゆる場面においてすべての行動がお客様第一であることを基本に、さらなる成長に向けた中長期ビジョン「グローバルビジョン21」の実現を目指しています。

「グローバルビジョン21」の実現に向けたロードマップとして中期戦略を策定し、2018年度を最終年度とした中期戦略「CS B2018」(2016年度～2018年度)では、“Transform for the Future ~変革への挑戦~”をテーマに掲げ、「事業の変革」「業務の変革」「人財の変革」を実践してきました。「事業の変革」では、成長領域へのリソースシフトや製品ポートフォリオの置き換えなどを進め、プリンティング・アンド・ソリューションズ事業の大幅な収益性改善や産業機器・ドミノ事業の売上成長を実現しました。

「業務の変革」では、開発プロセスの効率化や、機能センターによる各事業への効果的な支援体制を構築したほか、RPA・AIを活用した業務プロセスの変革を開始しました。「人財の変革」では、人財改革委員会による人事制度改革や次世代経営人材の育成、1on1など新たな人材育成手法による全従業員の成長促進に着手できました。

次なる成長に向けて

このように「CS B2018」において一定の成果を上げることはできましたが、デジタル化の進行による印刷機会減少の流れや、所有から利用へといったお客様のサービスニ

ーズの多様化、省人化・自動化・トレーサビリティ需要の高まりなど、ブラザーを取り巻く事業環境は今後も大きく変化し、厳しさを増していくものと認識しています。

こうした認識のもと、ブラザーグループはさらに踏み込んだ改革が必要不可欠であると考え、“TOWARDS THE NEXT LEVEL ~次なる成長に向けて~”をテーマに掲げ、新中期戦略「CS B2021」(2019年度～2021年度)を策定しました。

2021年度を最終年度とする「CS B2021」は、次なる成長に向けての経営基盤を構築する期間と位置付け、ブラザーの強みを発揮し、中長期的な視点から以下4つの改革を実行していきます。

- ・事業規模の維持・収益力の強化と新たなビジネスモデルへの転換を加速させることによる、プリンティング領域での勝ち残り
- ・自動車・一般機械市場強化と省人化・自動化ニーズを捉えることによる、マシナリー・FA領域の成長加速
- ・ドミノ事業の成長再加速とプリンティング技術活用による、産業用印刷領域の成長基盤構築
- ・RPA・AIなどのIT活用による業務プロセスの変革を推進し、スピード・コスト競争力のある事業運営基盤の構築

「CS B2021」における財務目標と投資戦略

これらの改革を成し遂げることにより、「CS B2021」の最終年度となる2021年度の業績目標*として売上収益7,500億円、営業利益750億円、営業利益率10.0%の達成を目指します。また、成長のための戦略投資枠として500



代表取締役会長 小池 利和

代表取締役社長 佐々木 一郎

億円を設定し、産業用領域のさらなる拡大、新規事業の創出・育成、インクジェット関連の設備増強に向け、M&Aも含めた投資を加速していきます。

株主の皆さまへの利益還元については、成長のための戦略的な投資枠を確保した上で、連結配当性向35%を目標として、安定的な配当を行っていきます。

今後も安定的なキャッシュフローを創出し、財務の健全性確保に努め、生み出したキャッシュは戦略投資と株主還元へバランスよく配分し、ROEについては12%水準を維持していく方針です。

※国際会計基準(IFRS)適用

ステークホルダーから信頼される 企業であり続ける

ブラザーはステークホルダーから信頼される企業であり続けるため、環境・社会・ガバナンスにも力を入れています。また、社会課題の中から優先的に取り組む項目を抽出し、その取り組みを通して国連総会において2015年に採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」に貢献するなど、事業を通じた社会価値の創出を実現していきます。

地球環境の課題解決に向けては、2018年4月に策定した「ブラザーグループ 環境ビジョン2050」のマイルストーン「2030年度中期目標」の達成に向け、バリューチェーン全体から排出されるCO₂の削減などに取り組んでいます。

また、社会とのコミュニケーションを通じて要請や期待を正しく把握し、お客様が幸せを感じるイノベーションを創出する取り組みや、グループ全体で一体感を持った社会貢

献活動を実施していきます。また、これらに取り組む従業員が心身ともに健康であるため、ブラザーグループ健康経営推進協議会を設置し、健康経営理念のもと具体的な健康目標である「健康ブラザー 2025」の達成に向けた活動を推進しています。

コーポレートガバナンスにおいては、経営資源の最適化と顧客価値の創造により企業価値を長期的に高めること、企業の透明性を高め、株主の皆さまとの間に長期的信頼関係を築くことを重視しています。ブラザー工業では、多くの独立した立場の社外取締役が客観的な視点で経営に対する監督を行っています。

ブラザーは、「At your side.」の精神のもと、グループすべての従業員が一丸となって優れた価値を迅速に提供することで、お客様に喜んでいただきたいと考えています。

そのために、従業員一人ひとりがさまざまな経験を通じて成長し、能力を向上させていきます。そして、従業員がさらにお客様に価値を提供し双方が幸せになれるよう、先頭に立って行動していきます。

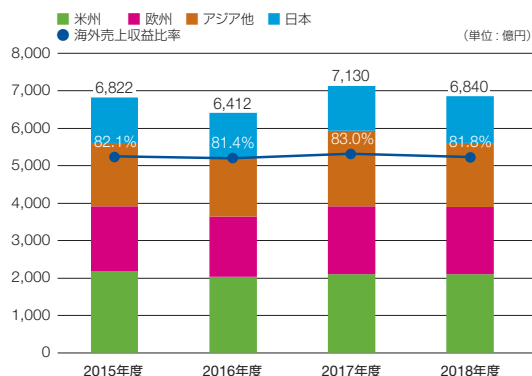
今後ともブラザーグループのすべての活動にご理解、ご期待を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

財務・非財務ハイライト

※プラザグループは、2016年度連結決算より、国際会計基準(IFRS)を運用しています。
また、2015年度の財務数値についてもIFRSに準拠して表示しています。

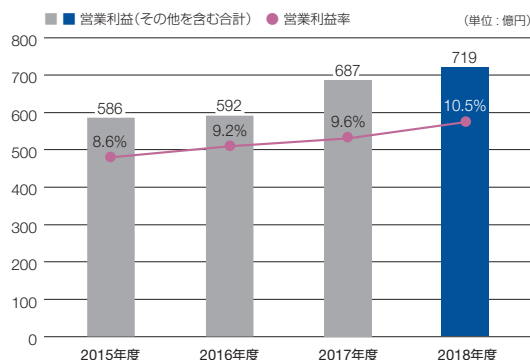
地域別売上収益

海外売上収益比率 約8割



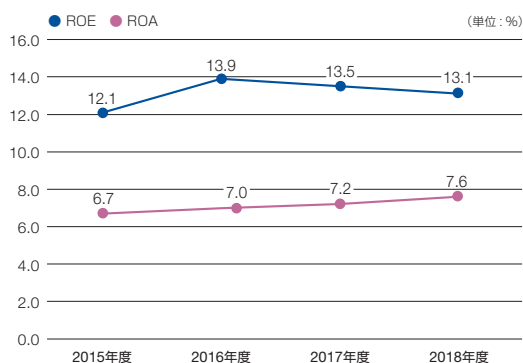
営業利益・営業利益率

営業利益率 10.5%



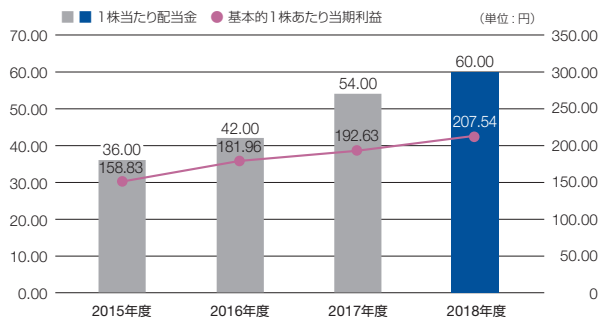
ROE・ROA

継続して高い水準のROEを維持



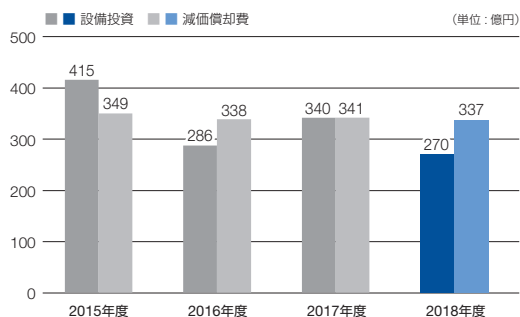
基本的1株当たり当期利益・1株当たり配当金

継続的な増配を実施



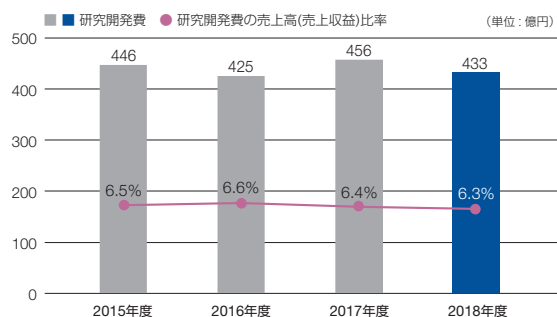
設備投資・減価償却費

持続的成長に向けた設備投資



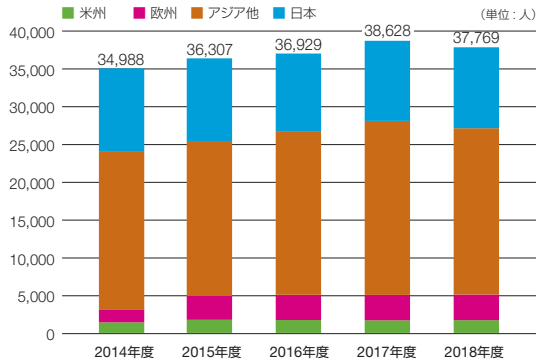
研究開発費・売上収益比率

顧客価値創造に向けた研究開発



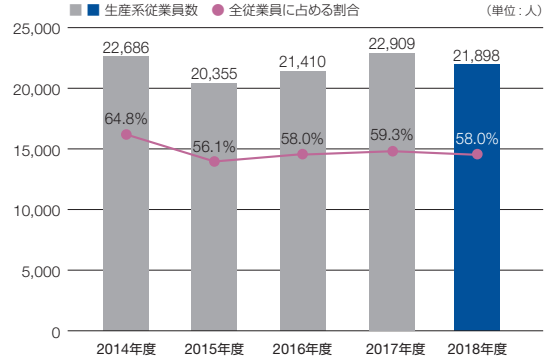
地域別従業員数

グローバルに人材が活躍



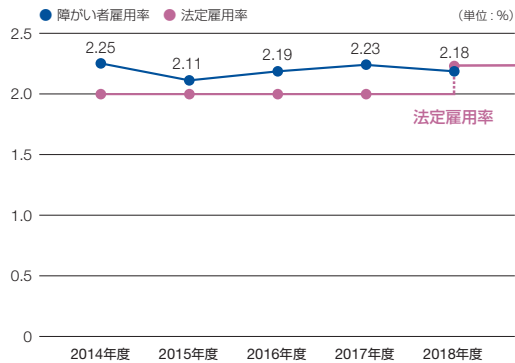
生産拠点の従業員数

約6割の従業員が生産に従事



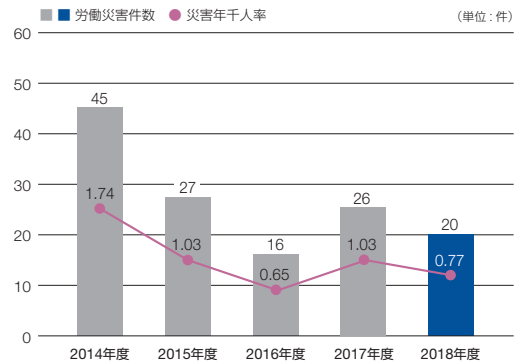
障がい者雇用率(ブラザー工業)

継続的な障がい者雇用



生産拠点労働災害件数

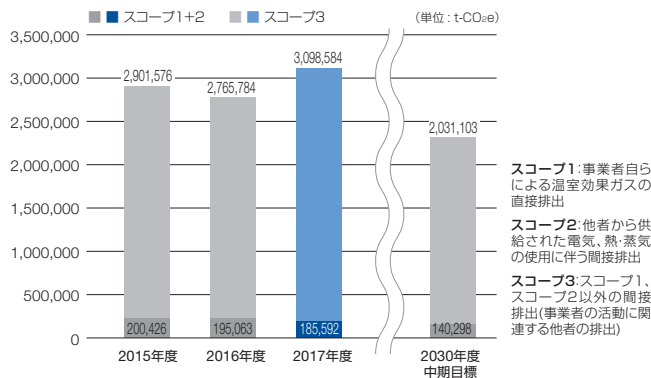
グローバルに安全衛生活動を推進



災害年千人率：(災害件数/従業員数)×1000

ブラザーグループ^{※1}バリューチェーン全体のCO₂排出量^{※2}

スコープ1, 2およびスコープ3を30%削減(2030年度 中期目標)

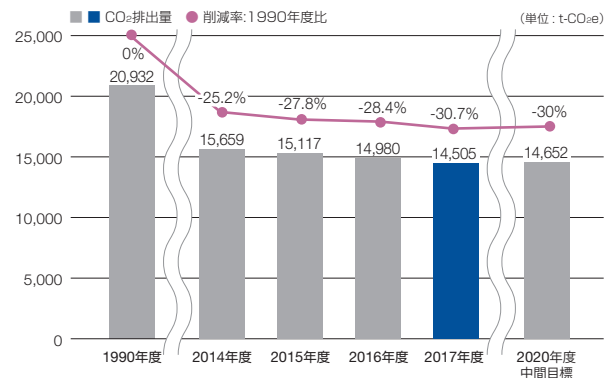


※1 国内外の製造・非製造拠点の事業活動に伴う排出についての総計。

※2 CO₂排出量の算定にあたっては、ISO14064-1およびサプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドラインの規定に準拠して算定。

国内8事業所のCO₂排出量^{※2}

1990年度を基準として2020年度までに30%削減(絶対値)



すべての事業で優れた価値を提供し お客様のワークスタイルや ライフスタイルを支援していきます

ブラザーグループは、あらゆる場面でお客様を第一に考え、
モノ創りを通して優れた価値を創造し、
迅速に提供することを使命としています。

「通信・プリンティング機器」「電子文具」「家庭用ミシン」
「工業用ミシン」「産業機器」「工業用部品」「通信カラオケシステム」
「コーディング・マーキング機器」「デジタル印刷機」など幅広い分野で、
ブラザーならではの製品やサービスをお届けしています。



プリンティング・アンド・ソリューションズ事業

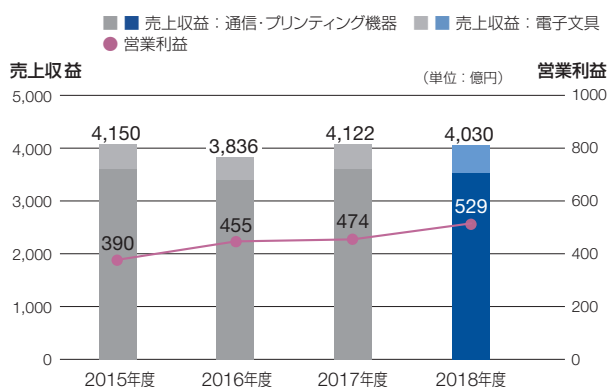


事業方針

- 通信・プリンティング機器：
全社ポートフォリオ経営を支える中核事業として収益力、競争力のさらなる強化
- 電子文具：
ホーム・オフィス領域でのグローバルNo.1を堅持し、利益水準を維持しつつも、さらなる飛躍に向け特殊業務用途向けビジネスを拡大

2018年度の営業概況

売上収益 / 営業利益の推移



売上収益：4,030億3千6百万円(前期比△2.2%)

■ 通信・プリンティング機器

3,531億2千万円(前期比△3.2%)

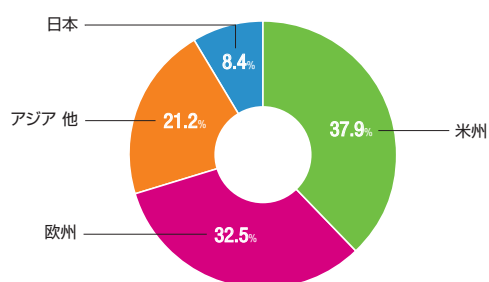
主にSOHO市場向けのモノクロレーザー製品がグローバルで堅調に推移したことに加え、インクジェット複合機の新興国向けの大容量タンクモデルの販売が計画を上回るペースで進捗したものの、IFRS15号の適用による影響や為替のマイナス影響もあり、事業全体では減収となりました。

■ 電子文具

499億1千6百万円(前期比+5.6%)

「ピータッチ」ブランドで展開するラベルライター・ラベルプリンターが、グローバルで堅調に推移したことに加え、モバイルプリンターを中心とするソリューション分野が好調に推移し、事業全体で増収となりました。

地域別売上収益構成比



事業セグメント利益：521億8千1百万円
(前期比△1.3%)

営業利益：529億3百万円(前期比+11.7%)

事業セグメント利益は、ほぼ前年並みの水準となりました。営業利益は、為替予約に関する評価損の影響がなくなったことにより、大幅な増益となりました。

※ 売上収益と営業利益は、国際会計基準(IFRS)に基づいて算出しています。
事業セグメント利益は、売上収益から売上原価、販売費および一般管理費を控除したものです。

事業の概要

通信・プリンティング機器分野

ブラザーの強み

通信・プリンティング機器では、1990年代前半、自宅などをオフィスとして個人や少人数で仕事をするSOHO (Small Office, Home Office) というワークスタイルに対応した熱転写ファクスやレーザー小型複合機を開発し、パイオニアとしてのポジションを確立しました。特にレーザープリンターや複合機は、現在でもSOHO市場で高速印字、コストパフォーマンス、耐久性などが評価され、全世界で多くのビジネスパートナーや業界専門誌から高い評価を受けています。

近年は、コンパクトなモノクロ/カラーレーザー複合機、A3ビジネスインクジェット複合機などと、モバイル機器やクラウドに対応できるスキャナーを組み合わせることで、インプットからアウトプットまで一貫してお客様のニーズに応えています。さらにお客様層をSMB※市場にも広げ、お客様の困りごとを解決するソリューションやオフィスでの最適製品最適配置の提案、印刷管理・消耗品自動配送などの契約型ビジネスも拡大し、お客様の生産性向上とコスト最適化を実現しています。

市場動向と事業戦略

- SOHO市場でのポジション堅持
- SMB・ソリューション分野の重点強化
- 新興国での利益ある成長
- 効率化の徹底と利益貢献につながる重点投資による収益力強化

先進国のSOHO市場では、モノクロレーザーやカラーレーザーなど多くのカテゴリでシェアを維持・拡大しています。SMB市場では、欧州においてお客様の印刷管理と消耗品自動配送などの契約型ビジネスが順調に拡大しています。新興国市場では、モノクロレーザー事業に加え、特にインクジェット事業はリフィルタンク内蔵型モデルを中心に計画を上回り、収益力強化に大きく貢献しています。事業全体としては、業務の効率化を推進し、手戻りの少ない開発の実践や製造コストの削減、付加価値のより大きな製品構成へのシフトなど、さまざまな変革の実現により、収益力強化事業として計画以上の利益創出を実現しています。

※Small Medium Businessの略称。小規模な事業所や中小企業、複数拠点に分散する企業のオフィスなど。

主要製品の紹介



モノクロレーザー複合機



カラーレーザー複合機



スキャナー



インクジェットプリンター



電子文具分野

ブラザーの強み

電子文具では、約30年にわたり「ピータッチ」ブランドのラベルライターおよびラベルプリンター事業を展開しています。高い操作性や機能性、豊富で多様なラベルのラインアップ、お客様のご要望に応じたソフトウェアの搭載やインターフェイスへの対応などにより、グローバルに非常に強いブランドとして、オフィス領域でのトップシェアを維持しています。

市場動向と事業戦略

- オフィス領域でのポジション堅持と利益維持
- 特殊業務用途向けビジネスの拡大

先進国におけるホーム・オフィス市場の成長は堅調に推移しており、新たな価値の提供として、スマホアプリでラベルを編集するラベルライターや、フルカラー対応で写真や彩り

豊かなオリジナルカラーラベルを作成できるカラーラベルプリンターを発売しました。

また消耗品においても高級感あふれるプレミアムテープを発売するなど、付加価値を向上させ、収益を拡大します。

特殊業務用途向けビジネスにおいては、高成長が期待される自動認識市場(バーコードプリンターなど)において、ラインアップを拡充しさまざまな業務印刷ニーズに対応することで、お客様の生産性向上につながる最適なソリューションを提供していきます。

また配電盤や通信ケーブルへのマーキング、製造現場でのラベリングなど業務用の需要が新興国も含め増加しており、これらの用途により効果的に応ええるラベル消耗品のラインアップを広げ、ターゲット顧客・用途の拡大を目指します。

主要製品の紹介



ラベルライター



ラベルプリンター



モバイルプリンター

ブラザーの価値創造

世界中の評価機関から高い評価

ブラザーのプリンター・複合機は、世界中の評価機関から高い評価を得ています。2019年1月にアメリカの独立評価機関のバイヤーズ・ラボラトリー (以下、BLI) から、MFC-J6997 CDW/J6999CDWが、「Winter 2019 Pick Awards」を受賞し、プリンター・複合機、スキャナー製品では、BLIから2016年以降「Pick Awards」を4年連続で受賞しています。また、

アメリカのPCマガジンから「Business Choice」を6年連続、「Readers' Choice」を10年連続で受賞しています。日本では、株式会社BCNが主催する「BCN Award」のページプリンタ部門において、4年連続で「最優秀賞」を受賞しています。デザイン関連では、「iF DESIGN AWARD (iFデザイン賞)」を10年連続で、受賞しています。



▲4年連続



▲4年連続



▲10年連続

パーソナル・アンド・ホーム事業

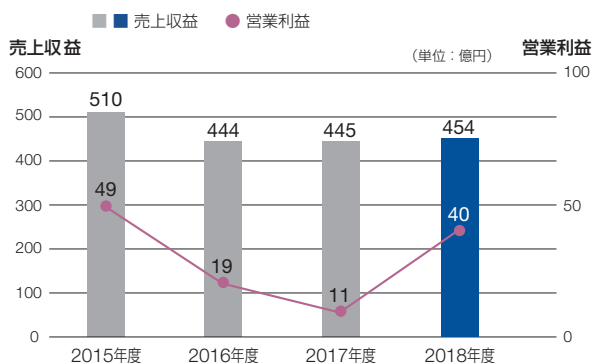


事業方針

■ 高級機から低級機までの圧倒的なグローバルNo.1の維持と新たな「作る楽しみ」への挑戦

2018年度の営業概況

売上収益/営業利益の推移



売上収益：454億4千5百万円(前期比+2.2%)

米国で販売を開始した最高級の刺しゅう用ミシンが好調に推移したことなどにより、増収となりました。

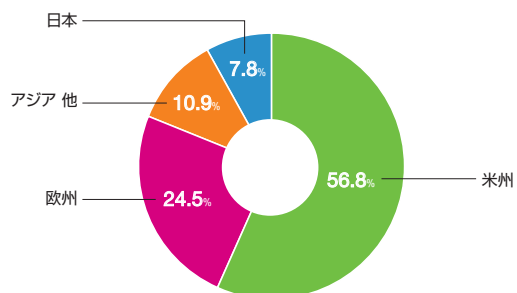
事業セグメント利益：40億3千7百万円
(前期比+103.8%)

営業利益：40億2千8百万円(前期比+283.1%)

最高級の刺しゅう用ミシンの販売好調による製品構成の変化により、大幅な利益改善となりました。

※ 売上収益と営業利益は、国際会計基準(IFRS)に基づいて算出しています。
事業セグメント利益は、売上収益から売上原価、販売費および一般管理費を控除したものです。

地域別売上収益構成比



刺しゅう用ミシン

ブラザーの強み

ブラザーは、家庭用ミシン事業において高性能かつ高付加価値の製品を提供できる業界随一の開発力を有しています。特に電子技術の強みを生かし、最先端の機能を使いやすい形でお客様に提供することで市場をリードしてきました。製造面では台湾、ベトナムの工場で、高級機から低級機までのあらゆる製品を生産しています。販売面においては、北米で抜群の知名度を誇っています。有力な大手小売店との強いパイプに加え、高級機を販売する大手ミシンディーラーなどの有力なビジネスパートナーと緊密な関係を構築しています。さらに、グローバルに展開する販売拠点が、優れた製品に加え、細やかなサービスや教育を提供することにより、強いブランド力を維持・強化しています。

主要製品の紹介



市場動向と事業戦略

- 家庭用ミシン事業の現在の地位を堅持しつつ収益力を強化
- 高級機の地位堅持と中級機市場でのシェアの拡大
- クラフト事業での攻めの成長

家庭用ミシンにおいては、北米に停滞傾向がみられますが、グローバルでの需要は堅調に推移しています。そのような中、ブラザーは付加価値の高い刺しゅう用ミシンと中級機による顧客満足度の向上を図ることにより収益拡大を目指します。カットニングマシンでは北米中心に市場が拡大しており、ブラザーは他メーカーにないスキャン機能の価値を訴求し、新規販売チャネルの開拓を推進することで事業の伸長を実現します。

ブラザーの価値創造

刺しゅう用ミシンもカットニングマシンも性能を大幅にアップ

「Luminaire Innov-is XP1」は、キルト製作や大型刺しゅうを楽しめる上級者向けの刺しゅう用ミシンです。

タブレット的な操作が可能な大型タッチパネル液晶で操作性をアップさせるとともに、内蔵プロジェクターにより縫製前にミシン縫いや刺しゅう模様の完成イメージを生地上に投影するので、お客様こだわりのデザインの完成をサポートします。さらに、13.1インチの広いふところスペースにより、キングサイズのベッドカバーのような大きな作品も作りやすくなり、刺しゅうサイズも拡大しましたので、クッションやピローケースに一気に刺しゅうできるようになりました。また、世界的に最も権威のあるデザイン賞の一つ「iF GOLD AWARD 2019(iFデザイン賞金賞)」に選定されました。

「スキャンカット (ScanNCut) DX」は、本体性能を大幅にアップグレードした新モデルであり、さらなる拡販を図ってまいります。従来機種では素材や生地の厚みによって刃の出力などの細かい調整作業が必要でしたが、自動ブレード調整機能を搭載することで、解消できました。また、この新モデルでは3mmまでのより厚い素材をカットすることが可能となり、本格的な創作需要にお応えできるカットニングマシンです。



マシナリー事業

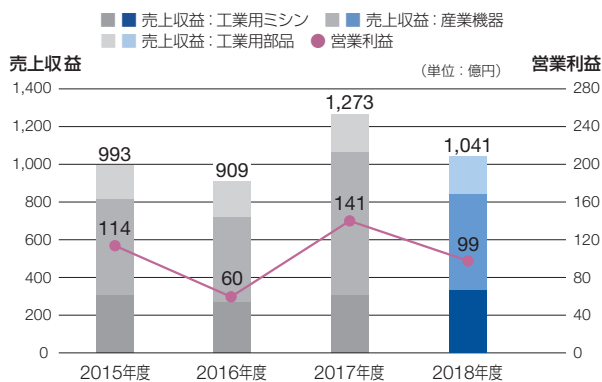
Machinery

事業方針

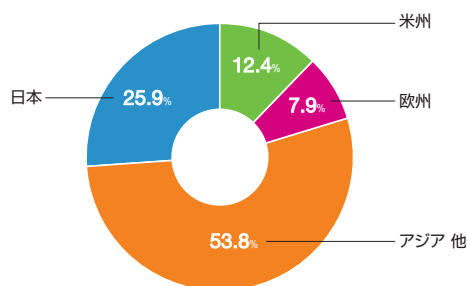
- **工業用マシン：**
顧客ニーズを取り込んだ新製品の開発と顧客基盤拡大
- **産業機器：**
製品ラインアップおよび営業・サービス体制の強化により、自動車・一般機械市場の顧客基盤を拡大
- **工業用部品：**
減速機と高精度歯車の収益伸長で産業用領域強化に貢献

2018年度の営業概況

売上収益/営業利益の推移



地域別売上収益構成比



売上収益：1,041億3千万円(前期比△18.2%)

■ 工業用マシン

326億2千6百万円(前期比+4.9%)

工業用マシンは、中国での需要が堅調に推移しました。ガーメントプリンターも欧米を中心に需要拡大が続きました。これらにより、事業全体でも増収となりました。

■ 産業機器

517億6千8百万円(前期比△31.9%)

自動車・一般機械関連は、前半は国内向けの需要が堅調に推移したものの、後半は減速感が出てきました。中国向けについては、IT関連を中心に需要が落ち込み、事業全体では大幅な減収となりました。

■ 工業用部品

197億3千5百万円(前期比△2.2%)

海外の景気減速の影響により、減収となりました。

**事業セグメント利益：97億5千3百万円
(前期比△32.4%)**

営業利益：99億1千万円(前期比△29.9%)

主に産業機器が減収となった影響により、減益となりました。

※ 売上収益と営業利益は、国際会計基準(IFRS)に基づいて算出しています。
事業セグメント利益は、売上収益から売上原価、販売費および一般管理費を控除したものです。

工業用マシン分野

ブラザーの強み

工業用マシンは布帛(ふはく：綿、麻などの織物)の縫製において、常に業界をリードしてきました。2018年にはブラザーが持つネットワーク技術を活用した「NEXIO(ネクシオ)システム」を開発しました。縫製工場の生産性向上に貢献するサービスとしてお客様から高い評価を得ています。また、ガーメントプリンターの新製品「GTX」は、オフィス用プリンターで培ったインクジェット技術により、プリントスピードの高速化と精細な印刷品質を実現しました。

産業機器分野

ブラザーの強み

ブラザーの産業機器は、マシンのキーパーツを製造する工作機械を自社で製作するところから生まれました。1985年には「CNCタッピングセンター」を発売。

コンパクトでありながらも高い生産性と環境性能が、自動車・IT業界などの部品加工においてお客様から高い支持を得てきました。

2013年の次世代工作機械ブランド「SPEEDIO(スピーディオ)」の立ち上げ後は、より大型の部品を加工する機種や、旋削加工もできる機種、さらにはロータリーテーブルなどのSPEEDIO周辺機器を投入し、新規市場を開拓しています。

工業用部品分野

ブラザーの強み

ブラザーは2013年、減速機・高精度歯車において国内で高いシェアを持つ株式会社ニッセイを連結子会社化し、高い付加価値が期待できる工業用部品事業に参入しました。

減速機の主力商品「ギアモータ」は幅広いラインアップと短期での納品が可能であり、特注品にもフレキシブルに対応して、お客様の多様な要望に応じています。また「高精度歯車」は、ロボット・工作機械向けを中心に展開しています。

社内で設計から製造まで一貫して行うことで、高精度・高品質な製品を創出し、特に傘歯車※の切削技術は市場で高く評価されています。

※ 交わる二軸間に運動を伝達する円錐形をした歯車。

市場動向と事業戦略

■ 自動化製品の開発と提案力強化

■ ガーメントプリンターの製品ラインアップ拡充

生産コストが上昇する中、自動化・省人化ニーズが高まっています。こうしたニーズに応える製品を継続的に市場投入していくとともに、提案力を強化し、お客様の生産性向上に貢献します。ガーメントプリンター市場は安定成長が続いています。今後は、印刷枚数が多いお客様のニーズに応えるため、製品ラインアップを充実させていきます。

市場動向と事業戦略

■ 自動車・一般機械市場で拡販、事業基盤を安定化

■ 製品ラインアップおよび営業・サービス体制の強化

工作機械市場は、自動車・一般機械向けを中心に、中長期的には今後も市場の拡大が期待できます。

そのような中、製品ラインアップを今後も拡充し、省人化・自動化の流れに合った製品や当社より一回り大きな他社の工作機械からの置き換えを加速する製品を開発します。また、主に自動車市場での事業拡大に伴う販売・マーケティング・メンテナンスなどの強化に向けて、継続的な投資を実施します。

市場動向と事業戦略

■ 主力事業(減速機・高精度歯車)の収益力を強化

■ 他のマシナリー事業とのシナジーの追求

国内の減速機市場では堅調な「ギアモータ」標準品に加えて「低電圧ギアモータ」や「高精度減速機」の伸長が期待されます。また、成長するロボット市場では国内外メーカー向けに「高精度減速機」や「高精度歯車」の需要拡大が見込まれます。能力増強や生産効率向上により収益力を継続的に強化するとともに、海外市場への販路拡大、ロボットメーカー向け製品の開発・販売拡大を進めていきます。

他のマシナリー事業とのシナジーについては、産業機器向け「高精度減速機」などの供給やグループ内での共同開発を通じて、産業用領域での製品競争力強化につなげていきます。

主要製品の紹介



工作機械



工業用ミシン



ガーメントプリンター



減速機



歯車

ブラザーの価値創造

「簡単に始めて、すぐに見える化」 NEXIOシステムで生産性向上に貢献

NEXIOシステムは縫製ラインの生産性向上に直結するシステムとして開発を進めてきました。ミシン本体にWi-Fi通信モジュールを装着し、インターネットにつなげることにより、いつでも、どこからでもリアルタイムに生産状況を確認することができます。また、ミシン情報を使ったシステムのため、

正確に、効率よく縫製ラインの稼働状況を把握できます。ご購入いただいたお客様からは「システムのコンセプトが明快。機能もシンプルで解りやすい。これならすぐに現場に導入できる」と高く評価されています。

ネットワーク・アンド・コンテンツ事業

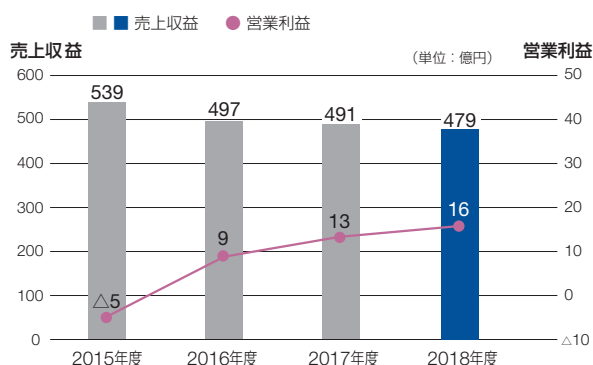


事業方針

- 「再成長ステージ」と位置付け、ビジネスモデルの変革と拡大を目指す

2018年度の営業概況

売上収益 / 営業利益の推移



売上収益 : 479億2千6百万円(前期比△2.3%)

前期に発売した新モデル「JOYSOUND MAX2」の需要が一巡したことに加え、売買取引が中心であった前期と比較して、当期はレンタルでの取引が増加したこともあり、減収となりました。

事業セグメント利益 : 17億7千8百万円
(前期比△33.2%)

営業利益 : 15億9千3百万円(前期比+18.6%)

減収に伴い、事業セグメント利益は大幅な減益となりました。営業利益は、前期に計上した減損損失がなくなったことにより増益となりました。

※ 売上収益と営業利益は、国際会計基準(IFRS)に基づいて算出しています。事業セグメント利益は、売上収益から売上原価、販売費および一般管理費を控除したものです。

事業の概要

ブラザーの強み

ブラザーの連結子会社である株式会社エクシングは、業界最多の30万曲を搭載し、ハイレゾ※1対応した業務用通信カラオケシステム「JOYSOUND MAX GO」や「JOYSOUND 響」シリーズ、1,000万人以上の会員数を誇る「うたスキ」※2といったスマートフォンと連携した独自のサービスで高い評価を得ています。グループ会社のテイチクエンタテインメントやスタンダードとの連携により、川上(コンテンツ)から川下(店舗)まで総合音楽エンタテインメント企業として一気通貫した立体的な事業を展開しています。

※1 マイク音声入力を24bit/192kHzで音響処理したもの。また、ミュージックは、CDスペックの素材波形を音響処理によりハイレゾ相当に変換したもの。
※2 エクシングが運営する通信カラオケ「JOYSOUND」と連携した会員制カラオケソーシャルメディア。

市場動向と事業戦略

- コア事業の収益性を高める
- 新たな収益モデルを育てる

ピーク時から縮小を続けていたカラオケ人口・店舗数はここ数年下げ止まり傾向にあり、商品力の高いフラグシップ型と市場特化型の2つのモデルの拡販を軸に市場を活性化していきます。また、拡大するヘルスケア市場に向けて、音楽療養コンテンツ「健康王国」を搭載する「JOYSOUND FESTA2」モデルの拡販を図ります。さらに、グループのシナジー効果を最大限に高めて、既存事業からビジネス領域を拡大、新たな収益モデルの育成・確立を目指します。

主要製品の紹介



JOYSOUND MAX GO



JOYSOUND 響 II



JOYSOUND FESTA2

ドミノ事業

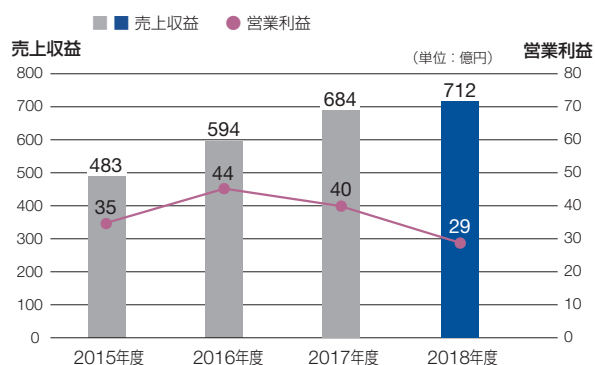


事業方針

- ブラザー/ドミノのシナジーを顕在化し、顧客体験の向上を実現し、ブラザーの次世代の柱の事業となる

2018年度の営業概況

売上収益/営業利益の推移



売上収益：712億3千4百万円(前期比+4.2%)

コーディング・マーキング機器、デジタル印刷機とも、グローバルで堅調に推移し、増収となりました。

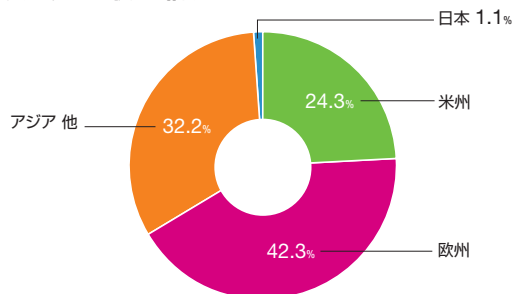
事業セグメント利益：39億4千8百万円
(前期比△14.9%)

営業利益：28億6千4百万円(前期比△28.4%)

事業セグメント利益は、減益となりましたが、社内計画に対しては概ね想定どおりの水準となりました。営業利益は、開発プロジェクトの見直しにより、開発資産の除却損を計上したことにより、減益となりました。

※ 売上収益と営業利益は、国際会計基準(IFRS)に基づいて算出しています。
事業セグメント利益は、売上収益から売上原価、販売費および一般管理費を控除したものです。

地域別売上収益構成比



コーディング・マーキング機器

ブラザーの強み

ブラザーの連結子会社であるドミノプリンティングサイエンス(以下、ドミノ)は、イギリスの産業用プリンティング機器メーカーとして、過去30年間安定した成長を続けています。

ペットボトルや缶に賞味期限などを印字するコーディング・マーキング(以下、C&M)事業では、グローバルでトップクラスのセールス・サービスネットワークを誇り、安定的な稼働台数の拡大に寄与しています。また、デジタル印刷事業では、高い生産性を持つデジタルラベル印刷機で、ラベル印刷会社の課題である小ロットジョブ対応、廃棄削減、職場環境改善に貢献しています。

両分野とも稼働台数の拡大と、高い純正品比率を持つ消耗品の使用が見込まれます。

市場動向と事業戦略

- 成長事業として、2019年～2023年の5年間で売上の年平均成長率8%の実現を目指す
- ドミノグループの販売力強化とブラザーの技術との連携によるビジネス拡大
- C&M領域におけるポジションの向上
- デジタル印刷の拡大

安定成長が見込まれるC&M事業では、力強いセールスネットワークにより拡販が進んでいます。デジタル印刷市場では特にラベル市場で強固なポジションを築いています。販売・サービス投資と、ブラザーの技術力を生かした製品開発を継続しており、C&M分野の継続成長とより高成長が見込まれるデジタル印刷分野における事業拡大により、ブラザーグループの次世代の柱となることを目指します。

主要製品の紹介



コーディング・マーキング機器



デジタル印刷機

ブラザーの価値創造

ドミノの改善活動・生産性や信頼などが評価され数々の賞を受賞

ドミノは、2018年にイギリスにおける製造に関して最も権威のある、Manufacturer MX Awardsにおいて、“Operational Excellence”賞を受賞しました。これは、2017年の“Supply Chain Excellence”賞に引き続き2年連続での受賞であり、従業員教育、製品開発、プロセス開発などの継続的な改善活動が評価されたものと自負しています。

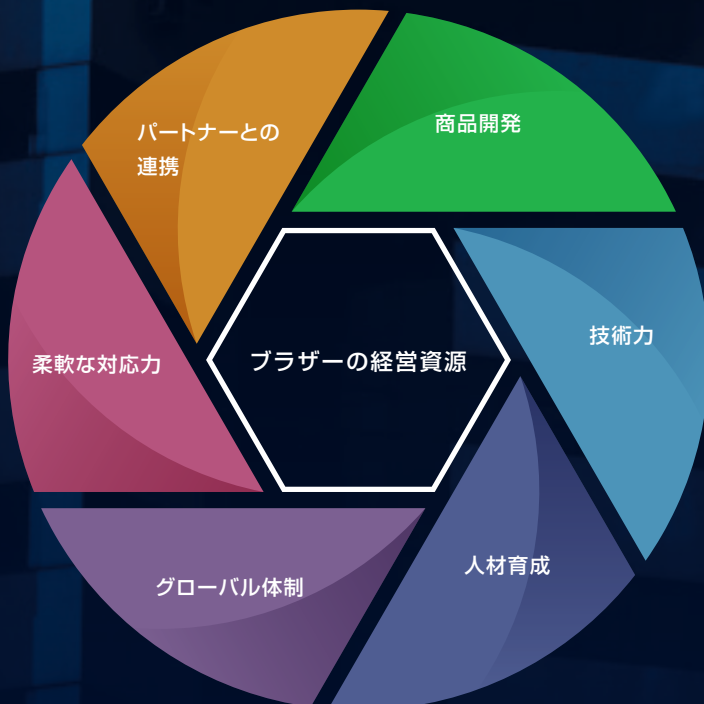
また、デジタルラベル印刷機N610iは、その高い生産性や信頼性などが評価され、2016年にベルギー・ブリュッセルで開催のLabelexpo Europeにて、エンドユーザー、メディア、業界専門家から構成される審査員により、European Digital

Press Awardsにおいて、“Best label printer”賞を授与されました。こういった数々の受賞も、すべてはお客様と向き合い、そして、寄り添いながら、継続的な価値提供を続けてきたからに他なりません。今後もドミノはお客様とともにあります。



独自のモノ創りの仕組みをはじめ、 さまざまな経営資源が、 ブラザーの価値創造を支えています

多様な顧客ニーズや課題に対応しながら、あらゆる場面でお客様を第一に考える
“At your side.”の精神で、ブラザー独自のマネジメントシステム
「ブラザー・バリュー・チェーン・マネジメント」(BVCM)により、
優れた価値を創造し、迅速にお届けすることが、ブラザーグループのビジネスモデルです。
「商品開発」「技術力」「人材育成」「グローバル体制」「柔軟な対応力」「パートナーとの連携」といった
さまざまな経営資源が、BVCM によるモノ創りを支えています。



持続可能な開発目標(SDGs)は、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。

商品開発

「お客様の声」を事業活動の起点とし、ニーズに合った製品・サービスを提供します



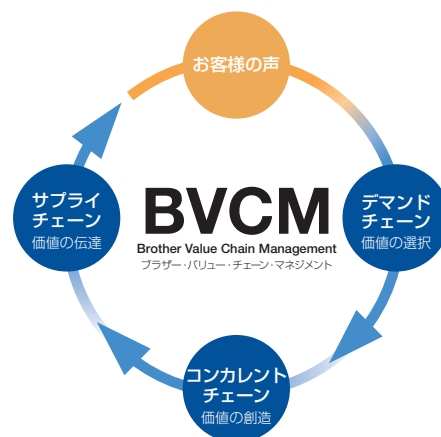
価値を創造する独自のマネジメントシステム

ブラザーグループは、独自のマネジメントシステム「ブラザー・バリュー・チェーン・マネジメント」(BVCM)を実践し、“At your side.”の精神で、より優れた製品・サービスをお届けしています。

BVCMの中の「コンカレントチェーン」では、デマンドチェーンでまとめられた製品コンセプトを具体的なカタチにします。試作の前後にシミュレーションや想定されるお客様によるモニター試験を何度も行い、高い品質レベルを実現しながら、迅速に開発設計を行います。

また生産技術担当部門では、お客様が望むタイミングで製品を提供できるように最適な生産ラインを設計します。

各部門が情報共有しながら同時進行で製品化に向けて取り組むことにより、お客様のご要望を迅速にカタチにすることが可能となります。



CASE お客様の声を聞き、製品が使用される現場を知って、お客様の求める製品を開発



▲ お客様へのヒアリング



▲ 訪問先で配送トラック乗降時の装着性を確認

幅4インチのラベルやレシートに印刷できる感熱モバイルプリンターを使用するアメリカのお客様は、車内に設置したりベルトに装着したりして、配送先や物流倉庫などの現場で納品書や配送ラベルを印刷します。

そのため、モバイルプリンターに対して、場所を選ばずどこでも情報端末とつながりやすいことや、トラックなどの車両の乗降や荷物を運ぶ際に加わる強い衝撃や負荷に耐える頑丈さを要望されます。

これらのご要望を達成するために企画担当者やメカ・ソフト開発者などが創意工夫を重ねるとともに、さらに優れた製品の提供に向け、完成品に近い試作機を持って、アメリカのお客様を訪問することを決めました。

訪問先では、企画・開発・品質管理の担当者がそれぞれの視点でヒアリングや使用状況の調査を行い、多面的な情

報を得ることができました。また、試作機を実際に操作いただくことで、自分たちでは気づけなかった、現場で実際に使用しているユーザーならではの操作方法や、お客様の抱える課題に気づくことができました。

製品開発期間のぎりぎりまで現場から学び、お客様のご要望を聞くことで、用紙を片手でセットできるといった操作性の向上や、複数台のモバイルプリンターを管理するためのラベルを貼るスペースを作るなど、カタログのスペックには表れない細部まで配慮した新たな価値を、製品に反映することができました。

技術力

お客様に評価され、 選ばれる製品を開発します



「ブラザーの技術力」は顧客価値創出力

ブラザーグループでは、固有の技術を生かしてお客様の求める製品・サービスを生み出すことが真の技術力であると考えています。

それは優れた技術は製品に活かされてこそ価値が生まれると考えるためです。

お客様に評価され選ばれる製品を提供するために、ブラザーグループの技術者はお客様と向き合い、お客様の声に真摯に耳を傾けています。そして、お客様が喜ぶ顔をどんな技術で実現するか、どんな製品でお客様の役に立つことができるかを常に考えながら価値創造に取り組んでいます。



CASE 使用時の操作を簡単にし、お客様の生産性向上に貢献



▲ 素材を選択して条件設定ができる「簡単設定」(赤枠)



▲ レーザーヘッド(左)から取り外せるファイバーユニット(右)

製造業などのお客様が、自社製品にシリアル番号やロゴマークを印字するときなどに使用されるレーザーマーカ。市場にある多くのレーザーマーカは印字する際、文字や図のデータを制作するほか、素材の硬さや耐熱性を考慮してレーザー出力や周波数などの細かな条件設定が必要で、お客様からは知識や経験がなくても簡単に印字できるモノが欲しいという要望がありました。

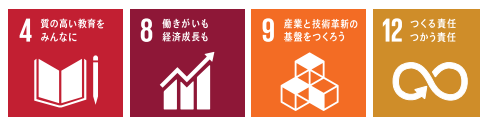
こうしたご要望にお応えするためブラザーは、レーザーマーカ付属のアプリケーションに、素材を選択しレーザー出力や速度をスライダーで感覚的に調整すれば印字が始められる「簡単設定」機能を搭載しました。この「簡単設定」機能を使用することで、印字準備から完了までの時間を短縮できるなど、お客様の生産性向上に貢献しています。

また、限られたスペースの生産ラインにも設置しやすい形状にするため、レーザーが出力するヘッドに固定されているファイバーユニットを取り外せる構造にしました。

再度取りつけたときに、レーザー光線のずれが発生しないように、レーザーの光軸がファイバーユニット側で設定されるよう機構を見直してレーザーの調整作業を不要にしました。これにより、事業の拡大・変動に伴う生産ライン増設や組み換えといった、お客様の变化にも対応しやすくなりました。

人材育成

従業員の多様性と個性を尊重し、
優れた価値を提供できるグローバルな人材を育てます



人材の基盤をつくる「グローバル憲章」に基づいた行動

ブラザーグループは「ブラザーグループ グローバル憲章」(以下、グローバル憲章)に基づいてグループの人材育成を行っています。

グローバル憲章の「基本方針」では、従業員に対する多様性の重視、さまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会の提供、努力と成果に対する公正な評価と正当な報酬を約束するとともに、社会の模範となる行動、会社との価値観の共有、目標達成のための努力、水準以上の成果、そして長期にわたる才能とスキルの発揮を従業員に求めています。



CASE 組織的な仕組みと従業員の自律的な行動による人材育成



▲ 従業員が講師となりスキルを伝える



▲ 受講者が行った作業を確認

マシナリー事業の生産拠点である兄弟機械(西安)有限公司(以下、BMX)は、一般社団法人日本能率協会が日本およびアジア地域で生産性や品質の向上など体質革新活動に取り組む工場を表彰する「GOOD FACTORY賞(ものづくり人材育成貢献賞)」を受賞しました。

この受賞は、BMXがお客様に信頼される工場を目指して取り組んでいる全社的な教育や次世代リーダーの育成、各現場での自主的な勉強会などの人材育成が評価されたものです。

全社的な教育では、職位ごとに必要なスキルを習得するためのプログラムがあり、プログラムの70%は、スキルを既に習得した従業員が講師を担当します。従業員が講師をすることで、受講者に分かりやすく伝えるために創意工夫をするとともに、自身のスキル向上にも役立っています。

次世代リーダー育成研修は、グローバ

ルに活躍できる次世代リーダーを育成することを目的に2017年から行っています。

この研修の受講者は30歳代の従業員が中心で、自身の職場での課題からチャレンジするテーマを一人ずつ設定し、それを解決していきます。受講者は、成果を追求するだけでなく、成果を生み出した行動とその行動を選択した自身の考え方を振り返り、次世代を担うリーダーにとって重要な視点を学びます。

また、各現場では従業員自らがノウハウを共有する勉強会を開催するなど、さまざまな場面で従業員が自律的に行動して、生産性やスキルの向上を図っています。

グローバル体制

すべての活動にグローバルチームで
取り組んでいます



ブラザーグループが目指す真のグローバル企業

ブラザーグループが理想とする「真のグローバル企業」とは、

- グローバル市場で、お客様の要望を先取りした革新的な商品を常にお届けしている
- 国境、性別、年齢の分け隔てなく、従業員が力を合わせて活躍している
- 開発・生産・販売などグローバルな役割分担が最適な地域で実現され、最適なバランスを生み出し、それが長期的に安定した経営につながっている

です。グループのノウハウがあらゆる地域の拠点で蓄積され、共有を深めることで、経営基盤がより強固なものとなり、他社に先駆けたブラザー独自の強みとして「真のグローバル化」が実現すると考えています。



CASE 各拠点の広報活動の共有や意見交換を通じて連携を強化



▲ 自拠点の広報活動を報告



▲ 意見交換する参加者

欧州の販売拠点は、お客様に価値ある情報を提供するため、各拠点が連携して広報活動を展開しています。

欧州の統括会社であるブラザーインターナショナル(ヨーロッパ) Ltd. (以下、BIE) は、ブラザーが提供する製品やサービスが「どのようにお客様のお役に立てるのか」「どのようにお客様のお困りごとを解決できるのか」といった情報を、各拠点がソーシャルメディアで発信できるよう、画像などさまざまな素材を提供しています。各拠点ではそれらを活用するとともに、その国の文化や慣習に合わせた独自の広報活動も行っています。

2008年からは、さらなる連携強化と情報発信の質向上を目的に、広報勉強会「PRアカデミー」を開催しています。2018年はイギリスで行われ、ブラザー U.K. Ltd. やブラザーフランス SAS、グループ本社であるブラザー工

業株式会社などから約30名の広報担当者が集まりました。

3日間の日程で開催され、各拠点からの活動報告と、SNSの活用法や有事の際のマスコミ対応方法を学ぶ研修が行われました。また、BIEに対する要望など、意見交換の時間も設けられました。参加者からは、「各販売拠点が行っている広報活動について知り、学ぶことができる貴重な機会でした。ワークショップ型の研修と一緒に取り組んだことで、広報担当者同士の連携も強化できました」といったコメントがありました。

柔軟な対応力

あらゆる市場の変化に対応します

パートナーとの連携

ともに取り組むことで信頼を培います



お客様の声に耳を傾けることで生まれる対応力と連携

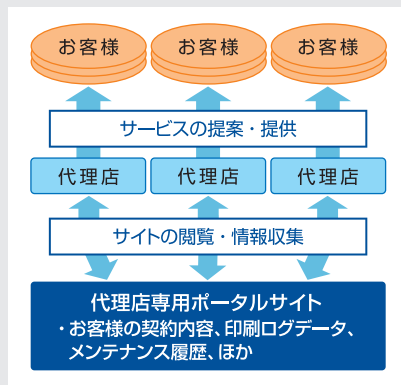
多様化するツールや市場、お客様の行動の変化など、事業環境はめまぐるしく変化しています。ブラザーがこれに対応していく上で大切なのが「柔軟な対応力」と「パートナーとの連携」です。

お客様の声を傾聴し、これまで培ってきた技術や知見、販売ルートやノウハウを生かしつつ、足りない部分や経験の浅い分野には、パートナーと適切に連携しながら柔軟に対応していきます。

そうすることで自ら変化できる企業であり続けたいとブラザーは考えています。



CASE 代理店専用のポータルサイトを作り、サービス向上と業務効率化を実現



▲お客様への価値提供のプロセス



▲代理店専用ポータルサイトのトップページ

ブラザーインターナショナル(ニュージーランド) Ltd. (以下、BINZ) は、多くの代理店と連携して法人のお客様にオフィスの印刷環境をより良くするための提案やお客様ごとに適切なタイミングでプリンターのメンテナンスや消耗品の補給を行うサービスを行っています。

BINZは、代理店の皆さまにお客様への価値提供をより効率的に行っていただけよう、代理店が新しいお客様に印刷環境を改善する提案を行ったり、現在契約中のお客様にさらなる価値を提供したりするのに必要な情報やサービスを集約した代理店専用のポータルサイトを作りました。

ポータルサイトには、お客様のビジネス形態ごとのサービスモデルや契約書が速やかに作成できるコンテンツとともに、お客様の契約内容や印刷ログデータ、メンテナンス履歴などの情報

が保管されています。代理店はサイトを活用して、お客様の印刷環境を改善する提案を行うなどサービスの向上を図ると同時に契約書を誤りなく速やかに発行したり、自動で請求書を発行したりするなど、業務効率も向上させています。

このサイトを利用する代理店からは「さまざまな情報を速やかに得ることができ、お客様に提案やサービスを行うときに、とても役に立っています」といった評価を得ています。

環境への取り組み



地球環境への配慮に前向きで 継続的な取り組みを行っていきます

ブラザーグループは「持続的発展が可能な社会の構築に向け、企業活動のあらゆる面で環境負荷低減に前向きで継続的な取り組みをする」ことを環境への取り組みの基本理念としています。この理念に基づき「環境への配慮は、すべての活動の基本」「製品が開発・設計され、製造され、お客様によって使用され、やがて廃棄され再利用されるまで、すべての段階で安全かつ環境に対する影響を十二分に配慮する」ことを基本方針としています。

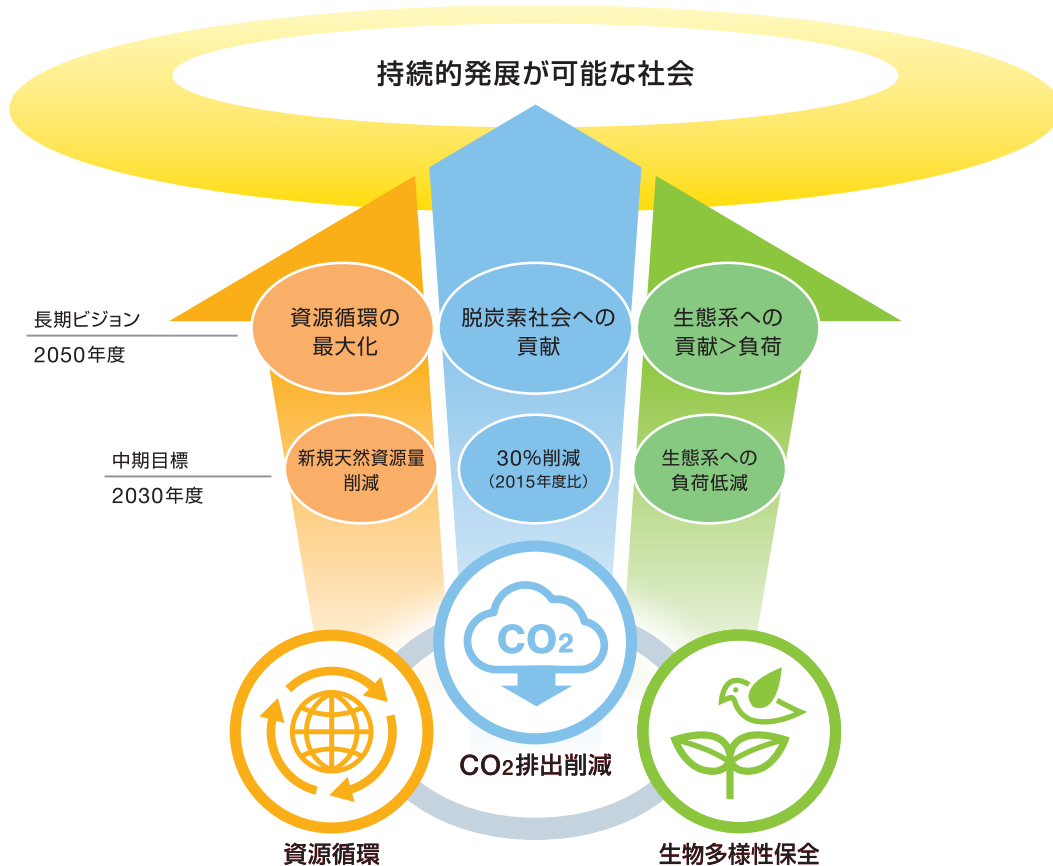


よりよい地球環境を、あなたとともに。



ブラザーグループ 環境ビジョン2050

持続的発展が可能な社会の構築に向け、社会的な環境課題の解決に貢献していくために、ブラザーグループの環境目標として「ブラザーグループ 環境ビジョン2050」を策定(2018年4月)するとともに、そのマイルストーンとして「2030年度 中期目標」を設定しました。



ブラザーグループ中期環境行動計画2021

「ブラザーグループ 環境ビジョン2050」の実現に向けて、バリューチェーン全体の環境負荷低減を着実に進めることを目的とし、本行動計画を策定しました。

〈基本方針〉

「ブラザーグループ 環境ビジョン2050」に掲げた重要課題の解決に向け、ステークホルダーとともに、以下の取り組みを積極的に推進します。

- 環境配慮製品を創出します
- 事業活動が生態系に与える負荷を低減し、保全活動を拡大します
- バリューチェーン全体から排出されるCO₂を削減します
- 環境法規制の順守に加え、社会的要請に的確に取り組みます
- 事業活動における資源循環を強化します

〈取り組みテーマ〉

次のように環境負荷低減に取り組む分野ごとに取り組みテーマを分類しました。

事業所	CO ₂ 排出削減(スコープ1,2)		CO ₂ 排出削減(スコープ3)	
		取水量の削減	製品	リユース・リサイクルの強化
	廃棄物削減	環境配慮設計の強化		
	ISO14001取得とEMS再構築	法順守と社会的要請への対応		
	法順守と社会的要請への対応	ステークホルダー	情報開示	
	生態系への影響評価		お取引先との協働	
	生物多様性保全		環境教育	

スコープ1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出

スコープ2：他者から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

スコープ3：スコープ1、スコープ2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他者の排出)

ブラザーグループ中期環境行動計画2018に基づいた取り組み(ハイライト)

中期環境行動計画2018で設定した
18項目の環境目標はすべて達成しました。

〈環境配慮製品の開発〉

環境配慮製品の開発に一層注力するため、各国環境ラベルの積極的な取得と新基準への対応など、各製品分野でトップレベルの環境配慮製品を推進しています。この環境配慮設計を基盤に、製品のライフサイクル全体における環境負荷低減を目指し、カーボンフットプリントの削減に努めています。

〈グループを挙げてのCO₂排出量削減〉

2013年度からは、CO₂排出量削減活動の対象範囲をグループ全体に拡大し、自社だけでなく製品のサプライチェーン全体でのCO₂排出量の算定と削減にチャレンジしています。

〈世界の環境法規制/社会動向への対応〉

製品含有化学物質規制、廃電気電子機器/包装材リサイクル法令、製品省エネ規制などの各国・地域の法規制の動向に迅速に対応できる体制を強化し、法規制を順守しています。

〈環境コミュニケーション〉

「Brother Earth」を環境スローガンとして掲げ、多くのステークホルダーと連携・共同し、環境保全や地域社会への貢献活動に積極的に取り組んでいます。

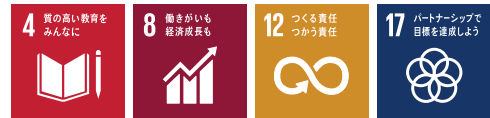
環境スペシャルサイト「brotherearth.com」では、ブラザー製品の「環境技術の取り組み」と併せ、グループ各社の「環境保全活動」を紹介、「クリック募金」などで連携・共同の輪を拡げています。

〈生物多様性保全〉

COP10※開催地の名古屋に本社を置くグローバル企業として、「愛知目標」を上位目標と位置付け、「普及啓発」「生息地の破壊の抑止」「保護地域の保全」「知識・技術の向上と普及」など主に8つの目標に対応し、内モンゴルの砂漠化防止プロジェクトやタイでのマングローブ林再生プロジェクトなど、グループ各社で地域特性を考慮した活動を継続的に進めています。

※ 愛知県名古屋市で開催された「生物多様性条約第10回締約国会議」の略称。「愛知目標」は、COP10において生物多様性の喪失を抑止するための実効性のある緊急目標として、2020年までをめどに達成することが合意された20の目標。

社会への取り組み



ブラザーグループ全体で事業を通じた社会価値の創出を実現していきます

社会から要請される価値は変化しています。ブラザーは、数多くある社会課題の中から以下の項目に優先的に取り組み、事業を通じた社会価値の創出を実現していきます。

- お客様が幸せを感じるイノベーションを、従業員が創造力を発揮し生み出すこと
- 地球環境保全に継続的に取り組むこと
- 社会貢献活動を継続的に推進すること
- 社会要請に迅速に応えるため、ビジネスパートナーとの協働体制を強化すること



従業員の雇用・処遇に関する基本方針

多様な人材が能力を発揮できる制度・環境を整備

ブラザーグループのすべての活動の礎である「ブラザーグループ グローバル憲章」に「従業員の多様性を重視し、さまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会を提供する。そして、努力と成果に対しては、公正な評価と正当な報酬に応える」、「常に一人ひとりの人格、多様性を尊重し、信義と尊敬を持って行動する」と定めています。この考え方に基づいて、採用・評価・昇進などで、民族・国籍・宗教・思想・性差・学歴・年齢・障がいの有無などによる、あらゆる差別を排除することを目指し、また、児童労働や強制労働を禁止しています。



▲さまざまな拠点で従業員が活躍

お取引先とともに CSR 調達を推進

「調達方針」と「CSR 調達基準」を公開するとともに、優秀な活動を表彰

部品や材料を調達するお取引先にブラザーグループの CSR 調達の考え方を共有するため、「調達方針」と「CSR 調達基準」を公開しています。

「調達方針」はグリーン調達の推進や責任ある鉱物の調達などを、「CSR 調達基準」はお取引先へのお願いとして、人権の尊重や働きやすい職場環境づくり、情報管理体制の構築などを定めています。

また、約500社のお取引先に行った安全対策や化学物質の管理状況などを確認する CSR アンケートをもとに改善要請や現場確認を行うとともに、お取引先が行う優秀な CSR 活動を表彰しています。



▲お取引先の優秀な CSR 活動を表彰

地域社会への貢献

支援している子どもたちと交流しながら、成長を見守る

ブラザーインターナショナルコーポレーション(カナダ)Ltd.(以下、BIC(カナダ))は、2015年から、国際的な非政府組織プラン・インターナショナルと連携し、途上国の子どもたちを支援する活動を行っています。

途上国では、教育や保健医療などの体制がないために、多くの子どもたちが貧困や差別の連鎖から脱出できない状況にあります。BIC(カナダ)は、子どもたちを支援する資金を作るため、定期的に慈善バザーを実施しています。

バザーでは、従業員が手作りしたパンケーキやニットの小物、アクセサリーなどを販売しています。そこで得た収益と同額を会社が上乘せしたうえで、子どもたちの住む地域に寄付され、教育や保健医療を整備するために活用されています。さらに2018年には、プラン・インターナショナルが西アフリカのブルキナファソで行う教育プロジェクトにも寄付されました。このプロジェクトでは、新しい学校の建設や教師の養成などが行われています。

また従業員は、支援している子どもたちのうち45名と文通をしています。従業員がブルキナファソを訪問する計画もあり、子どもたちとの交流はますます広がる予定です。従業員からは「子どもたちと会い、寄付金が彼らの生活に少しでも役立っていることが確認できれば嬉しいです。今後も、子どもたちとの交流を大切にし、支援を続けていきたいと思っています」という声がありました。



▲世界各地の子どもたちを支援



▲社内に飾られている子どもたちからの手紙

ブラザーのミシンを教材にした職業訓練を通じて、住民の就労を支援

ブラザーインターナショナル(南アフリカ)(Pty)Ltd.(以下、BI(南ア))は、地域住民の就労支援をしている非営利団体Avisaと協働で、2017年から、職業訓練講座を実施しています。

BI(南ア)の周辺地域では、住民の生活を経済的に安定させることが課題となっています。BI(南ア)は、ブラザーの製品を活用し住民の就労支援をしたいと考え、Avisaと協働でブラザーのミシンを教材にした職業訓練講座を開講しました。

この講座は「Brother Avisa Training Center」と名付けられ、受講者は4カ月間、毎週BI(南ア)に通い、ミシンの修理やメンテナンス、縫製技術などについて学びます。この「Brother Avisa Training Center」を修了した受講者の多くは、実習を積み重ね、身につけた技術を生かして就職を実現しています。



▲受講者が実習で製作した衣類

コーポレートガバナンス



コーポレートガバナンスの基本的な考え方

ブラザー工業は、ブラザーグループがグローバルに展開するすべての活動の礎として「ブラザーグループ グローバル憲章」を定め、経営資源の最適化と顧客価値の創造により企業価値を長期的に高めることや、株主に対する積極的な企業情報の提供により企業の透明性を高め、株主との間に長期的信頼関係を築くことなどを、ブラザー工業のコーポレートガバナンスに関する基本的な考え方としています。



コーポレートガバナンス体制

ブラザー工業株式会社（以下、ブラザー工業）は、2015年11月に「ブラザー・コーポレートガバナンス基本方針」（ブラザー工業Webサイトに公開）を制定し、この基本方針に沿ってガバナンス強化を図っています。

〈監査役会制度と執行役員制度〉

ブラザー工業の取締役会は、取締役11名（うち社外取締役5名）※で構成され、経営上の重要事項の決定と業務執行の監督にあっています。あわせて、ガバナンスの基本として監査役会制度（監査役5名、うち社外監査役3名）※を採用し、取締役の職務執行を監査役が監査する体制を整えています。また、社内組織として執行役員制を導入することにより、業務執行と監督を分離し、意思決定の迅速化とガバナンスの強化を図っています。執行役員は取締役会で選任され、それぞれが担当する事業、各部門、およびグループ子会社の業務執行に対し責任を負っています。

〈独立社外取締役〉

ブラザー工業は、多くの独立社外取締役を選任し、外部からの客観的・中立的な視点で経営を監視することにより、経営に対する監督機能の強化を図っています。当社の独立社外取締役は、おのおのの豊富な経験、実績および見識に基づき、当社経営陣から独立した立場で、経営に対する助言、重要事項の決定を行うとともに、業務執行を監督しています。

〈指名委員会および報酬委員会〉

取締役および執行役員の選解任および報酬に関する取締役会の機能の独立性・客観性を高めるため、取締役会の任意の諮問委員会として「指名委員会」および「報酬委員会」を設置しています。各委員会は、社外取締役5名および社内取締役2名の計7名※で構成され、社外取締役が委員長を務めています。

指名委員会は、取締役の選解任に関する株主総会の議案および執行役員の選解任に関する取締役会の議案の内容について、当該議案の確定前に公正、透明かつ厳格な審査を行い、取締役会に答申します。

報酬委員会は、取締役および執行役員の報酬の算定基準にかかる社内規程の内容、ならびに個人別の報酬の内容について検討し、取締役会に答申します。

〈取締役会の実効性向上に向けて〉

ブラザー工業は、毎年、各取締役および各監査役が、取締役会の有効性・実効性等について評価を行い、その結果を取締役に提出します。取締役会は、その評価に基づき取締役会全体の有効性について分析・評価を行い、その結果の概要を「コーポレートガバナンス報告書」に開示しています。取締役会は、各取締役および各監査役から提示された意見を踏まえて取締役会の実効性のさらなる向上を図ってまいります。

※ 2019年6月24日現在

役員報酬について

〈役員報酬の方針〉

ブラザー工業は、役員の詳細な経営責任に基づく客観的かつ透明性のある報酬体系を定め、他企業の報酬水準や従業員の処遇水準も勘案した適正な報酬額の支給を行う方針としています。

〈役員報酬の構成〉

取締役の報酬については、当社所定の取締役報酬規則等に基づき算定し、報酬委員会の検討および答申を受け、取締役会にて決定することとしています。

取締役の報酬の構成としては、①役位ごとに固定金額が定められている「基本報酬」、社外取締役および非常勤取締役を除く取締役に対しては、①に加え、②事業年度ごとの業績に対する成果責任を反映した「業績連動報酬」、および③長期的な企業価値向上へのインセンティブを高めるための「株式報酬型ストックオプション」の3つから構成されています。それぞれの報酬額および算定方法は、取締役報酬規則等にて詳細に定めることで、高い客観性と透明性を確保しています。「業績連動報酬」については、取締役報酬規則等において支給額算定のための基準額、指標を定めており、事業年度の業績に対して、期初に公表した業績予想値を査定指標における目標値とし、当該規則等で定めた査定方法により算定していま

す。「株式報酬型ストックオプション」は、役位ごとの基準金額を公正な評価単価で除すことで、対象者ごとの新株予約権の個数を算定しています。なお、「基本報酬」および「株式報酬型ストックオプション」は、株主総会にて決議された報酬限度額の範囲内にて、算定・支給しています。

監査役の報酬については、すべての監査役に対して基本報酬のみとしており、株主総会にて決議された監査役報酬限度額の範囲内にて、当社所定の監査役報酬規則に基づいて監査役会で定めています。

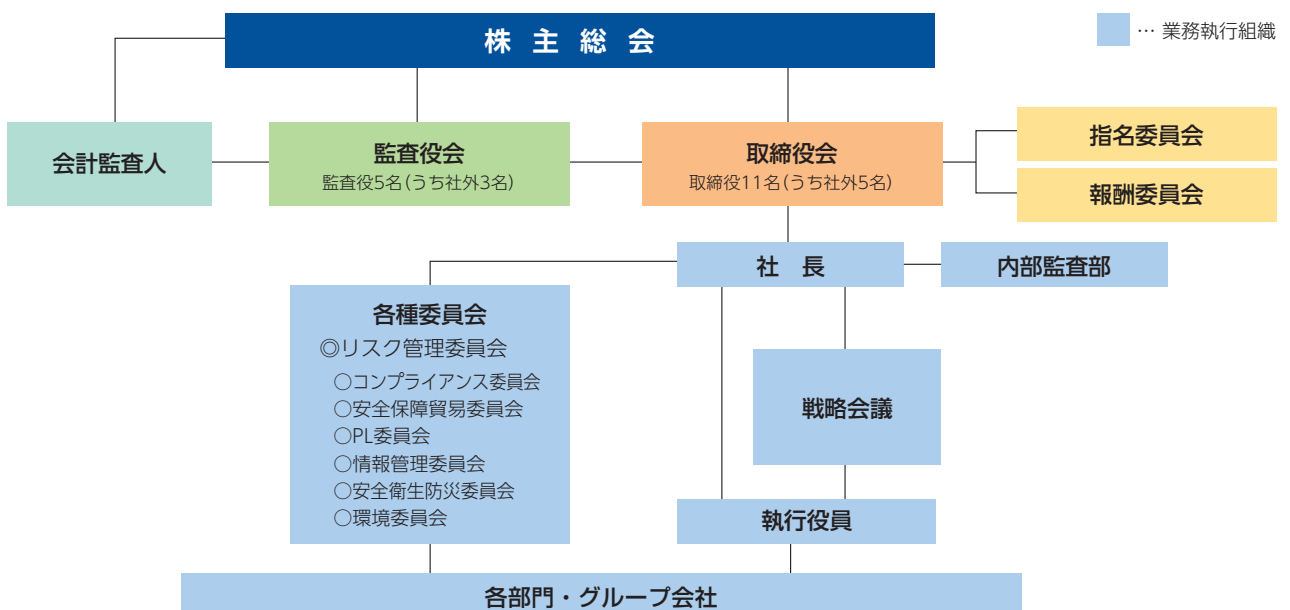
区分	支給人員	支給額 (百万円)	報酬等の種類別総額		
			基本報酬 (百万円)	業績連動報酬 (百万円)	株式報酬型 ストック オプション (百万円)
取締役 (うち社外取締役)	11名 (5名)	408 (54)	253 (54)	83 (-)	71 (-)
監査役 (うち社外監査役)	7名 (4名)	74 (25)	74 (25)	- (-)	- (-)
合計 (うち社外役員)	18名 (9名)	483 (79)	328 (79)	83 (-)	71 (-)

(2018年4月1日から2019年3月31日までの1年間)

(注) 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれていません。支給人員には、2018年度中に退任した監査役2名(うち社外監査役1名)を含んでいます。

ブラザー工業株式会社ガバナンス体制図

(2019年6月24日現在)



リスク管理体制

ブラザーグループにおけるリスクを識別、評価し、適切な対応指示を行う独立した経営管理組織としてリスク管理委員会（委員長：代表取締役社長）を設けています。これにより、内部統制と危機管理を含むリスク管理体制の充実を図っています。

また、リスク管理委員会の下部組織として以下の個別リスク委員会を設置し、それぞれの個別リスクに対応して、グループの重大なリスクを総合的にマネジメントしていく体制としています。発生時の影響が最高レベルと評価されたリスクについては「危機対応段階」と見なし、優先的に対応します。

〈コンプライアンス委員会〉

コンプライアンス（法令・企業倫理などの順守）に関する教育/啓発活動により、コンプライアンス意識の向上を図るとともに、違反行為の予防・再発防止に取り組んでいます。

〈安全保障貿易委員会〉

法規制に基づいて、適切な輸出取引や技術提供の管理にあたっています。また、法改正時の重要な案件審議のための委員会開催や社内監査、グループ会社への指導・教育によって、管理水準の維持・向上に努めています。

〈PL委員会〉

商品企画から研究・開発、設計・製造、販売・使用、修理・サービス、廃棄・処理に至る製品の安全性を確保するため、定期的に委員会を開催し組織的な取り組みをしています。

〈情報管理委員会〉

情報漏えいリスクなどに対応するために、会社に存在する情報および顧客情報の適切な管理方針を定め、グループ内へ展開しています。

〈安全衛生防災委員会〉

従業員の安全や健康の確保、災害の予防や災害時の被害の最小化を目的として、年間計画の審議、各施策の策定・実施、啓発などの活動を行っています。

〈環境委員会〉

環境担当役員が議長を務め、開発・技術・製造・総務に関連する分野の各担当役員以上が参加し、定期的にブラザーグループ全体で取り組まなければならない気候変動、製品に関わる環境法規制、事業所における環境汚染規制などの環境課題に対する施策を審議・決定しています。

社外取締役からのメッセージ



私たち5名の社外取締役の役割は、異なった分野の経験から得た知識と知見を基として、さまざまな視点から意見を述べ、それが結果として円滑な会社運営と、将来を見据えた永続的な発展に結びつく経営の意思決定に寄与していくことだと認識しています。

私自身は、国内外の大規模プラント設備の建設、製造業を含む子会社や関連会社の管理・監督、新規事業開拓に身をおいた経験を基に、積極的に意見を述べております。取締役会は、各自の建設的な意見で活発な議論がなされ、十分にガバナンスが維持されていると確信しています。今年新たな中期戦略「CS B2021」の初年度です。世の中の変化は想像以上のスピードで進んでおり、先を予測することは決して容易ではありません。しかしながら、どのような環境においても、先を見据え、ブラザーの価値向上を追求していかねばなりません。このことを改めて認識し、現在の主力分野のさらなる発展と、直近ならびに次世代をも睨んだ新規事業の発掘・拡大に向け、私たち社外取締役も一体となって取り組んでまいります。

社外取締役 竹内敬介

役員一覧 (2019年6月24日現在)

取締役



代表取締役会長
小池 利和



代表取締役社長
佐々木 一郎

ドミノ事業 統括
産業用印刷事業 統括
産業用印刷事業、新規技術開発部、
内部監査部 直轄



代表取締役 専務執行役員
石黒 雅

P&S事業 統括
P&S事業 OPS推進部 担当
兼 P&S事業 SPS推進部長



代表取締役 専務執行役員
川那辺 祐

マンナリー事業 統括
マンナリー事業 事業企画部、
マンナリー事業 技術部、
マンナリー事業 製造部、
マンナリー事業 工業ミシン開発部、
マンナリー事業 産業機器開発部、
マンナリー事業 QM推進部、
マンナリー事業 工業ミシン営業部、
マンナリー事業 産業機器営業部、
マンナリー事業 産業機器CS推進部 担当
株式会社ニッセイ 取締役



取締役 常務執行役員
神谷 純

N&C事業 統括
N&C事業 ネットワークシステム推進部
担当
株式会社エクスワン 代表取締役会長



取締役 常務執行役員
只 雄一

経営企画部
マーケティング企画センター
営業・マーケティング推進部、
マーケティング企画センター総合デザイン部
担当



社外取締役
西條 温

株式会社すからーくホールディングス
社外取締役



社外取締役
深谷 紘一



社外取締役
松野 聡一



社外取締役
竹内 敬介

株式会社海外交通・都市開発事業
支援機構 社外取締役
株式会社ゆうちょ銀行 社外取締役



社外取締役
白井 文

グンゼ株式会社 社外取締役
ベガシステム製造株式会社 社外取締役
住友精密工業株式会社 社外取締役
三洋化成工業株式会社 社外取締役
一般財団法人大阪府男女共同参画推進
財団 業務執行理事

監査役



監査役(常勤)
日野 圭一



監査役(常勤)
小川 和之



社外監査役
山田 昭

弁護士
スリーフィールズ合同会社 共同代表
デンヨー株式会社 社外監査役
ソーラーフロンティア株式会社
社外監査役
株式会社アミファ
社外取締役(監査等委員)



社外監査役
神田 真秋

株式会社大垣共立銀行 社外取締役
愛知芸術文化センター 総長



社外監査役
城野 和也

東レ株式会社 社外監査役

執行役員

常務執行役員

若原 宏之

人事部、法務・環境・総務部、
CSR & コミュニケーション部 担当

久野 光康

P&H事業 統括
P&H事業 事業企画部、
P&H事業 営業企画部、
P&H事業 クラフト事業推進部、
P&H事業 開発部、
P&H事業 QMCS推進部、
P&H事業 生産革新部 担当

桑原 悟

P&S事業 LE開発部、
P&S事業 LC開発部、
P&S事業 IDS開発部、
P&S事業 PA開発部、
P&S事業 LM開発部、
P&S事業 製造部 担当

村上 泰三

品質・製造センター 製造企画部、
品質・製造センター 技術開発部、
品質・製造センター 基礎技術部、
品質・製造センター 品質革新部、
品質・製造センター U製造部 担当

鈴木 剛

開発センター 技術革新部、
開発センター ソフト技術開発部、
知的財産部 担当

執行役員

星 真

マンナリー事業 産業機器事業 担当

小出 哲郎

ドミノ事業 ドミノ事業推進部、
産業用印刷事業
産業システム営業推進部 担当
兼 ドミノ事業 ドミノ事業推進部長

長谷川 泰之

マンナリー事業 工業ミシン事業 担当

佐藤 龍也

開発センター 電子技術開発部、
開発センター U技術開発部、
開発センター 新規事業推進部 担当

伊藤 敏宏

財務部、IT戦略推進部 担当

杉本 吉市

P&S事業 事業企画部、
P&S事業 QMCS推進部 担当

岩垂 友美子

P&S事業 SOHO・新興国推進部、
P&S事業 SMB推進部 担当
兼 P&S事業 SOHO・新興国推進部長

グループ執行役員

武田 進

兄弟高科技(深圳)有限公司 董事長
品質・製造センター 購買部 担当

野地 勲

ブラザーインターナショナル
(ヨーロッパ)Ltd. 取締役会長 兼 社長

池田 和史

ブラザーインターナショナル
コーポレーション(U.S.A.) 取締役社長

三島 勉

ブラザー販売株式会社 代表取締役社長

会社情報 (2019年3月31日現在)

商号	ブラザー工業株式会社(BROTHER INDUSTRIES, LTD.)
本社所在地	〒467-8561 名古屋市瑞穂区苗代町15番1号
設立	1934年1月15日
資本金	192億9百万円
従業員*	37,769名(連結) 3,865名(単独) ※正社員のみ



本社



技術開発センター



刈谷工場



瑞穂工場



星崎工場



東京支社



ブラザーミュージアム

展示館・ショールーム

ブラザーミュージアム

ブラザーミュージアムは、ブラザーが培ってきた「モノ創りのDNA」を100年以上の歴史を通して紹介しながら、世界市場で挑戦し続けるブラザーの現在、そして未来をご覧いただける展示館です。お気軽にお越しください。

所在地：名古屋市瑞穂区塩入町5番15号

開館時間：10:00～17:00(水曜日は19:00まで延長)

休館日：日曜日、祝日、ゴールデンウィーク、夏期連休、年末年始

※開館予定日でも、イベントなどの実施により休館にすることがあります。

WEB： <https://global.brother/ja/corporate/museum/>

TEL：052-824-2227 FAX：052-824-2069



ブラザー東京ショールーム

ブラザー東京ショールームは、ビジネス用途のブラザー製品を体験できるスペースです。1Fはプリンティング製品、2Fはオーダーグッズビジネス製品を展示しています。ゆっくりご体験いただけるよう、予約制とさせていただきます。お気軽にお問い合わせください。

所在地：東京都中央区京橋3丁目3番8号

開館時間：10:00～18:00

休館日：土・日曜日、祝日およびブラザー販売指定休業日

WEB： <https://www.brother.co.jp/corporate/bsl/tokyo-showroom/>

TEL：03-3281-1125 FAX：03-3281-4462



グループ拠点

日本

グループ本社

ブラザー工業株式会社

主要事業国内拠点

株式会社ニッセイ

ブラザーインターナショナル株式会社

三重ブラザー精機株式会社

ブラザー販売株式会社

ブラザーインダストリアルプリンティング株式会社

株式会社エクシング

株式会社スタンダード

株式会社エクシング・ミュージックエンタテインメント

株式会社BMB インターナショナル

株式会社テイチクエンタテインメント

株式会社テイチクミュージック

グランプリレジャーシステム株式会社

その他国内拠点

ブラザーロジテック株式会社

ブラザー不動産株式会社

ブラザーリビングサービス株式会社

株式会社ブラザーエンタープライズ

株式会社ビートップスタッフ

南北アメリカ

生産拠点

BROTHER INDUSTRIES (U.S.A.) INC.

販売・サービス拠点

BROTHER INTERNATIONAL CORPORATION (U.S.A.)

BROTHER INTERNATIONAL CORPORATION (CANADA) LTD.

BROTHER INTERNATIONAL DE MEXICO, S.A. DE C.V.

BROTHER INTERNATIONAL CORPORATION DO BRASIL, LTDA.

BROTHER INTERNATIONAL DE CHILE, LTDA.

BROTHER INTERNATIONAL CORPORATION DE ARGENTINA S.R.L.

BROTHER MOBILE SOLUTIONS, INC.

BROTHER INTERNATIONAL DEL PERU S.A.C.

ドミノ事業拠点

DOMINO AMJET INC.

CITRONIX INC.

ヨーロッパ

生産拠点

BROTHER INDUSTRIES (U.K.) LTD.

BROTHER INDUSTRIES (SLOVAKIA) s.r.o.

販売・サービス拠点、他

BROTHER INTERNATIONAL EUROPE LTD.

BROTHER INTERNATIONAL GmbH

BROTHER INTERNATIONAL GmbH (Austrian Branch)

BROTHER FRANCE SAS

BROTHER U.K. LTD.

BROTHER INTERNATIONAL (NEDERLAND) B.V.

BROTHER NORDIC A/S

BROTHER NORWAY, branch of BROTHER NORDIC A/S

BROTHER SWEDEN, branch of BROTHER NORDIC A/S, Denmark

BROTHER FINLAND, BROTHER NORDIC A/S Denmark, branch in Finland

BROTHER CENTRAL AND EASTERN EUROPE GmbH

BROTHER CENTRAL AND EASTERN EUROPE GmbH (Czech Branch)

BROTHER CENTRAL AND EASTERN EUROPE GmbH (Poland Branch)

BROTHER INTERNATIONAL (BELGIUM) NV/SA

BROTHER INTERNATIONALE INDUSTRIEMASCHINEN GmbH

BROTHER INTERNATIONALE INDUSTRIEMASCHINEN GmbH (Italian Branch)

BROTHER (SCHWEIZ) AG

BROTHER IRELAND DAC

BROTHER ITALIA S.p.A.

BROTHER IBERIA, S.L.U.

BROTHER IBERIA, S.L.U. (Lisbon Branch)

BROTHER LLC

BROTHER SEWING MACHINES EUROPE GmbH

BROTHER SEWING MACHINES EUROPE GmbH (U.K. Branch)

BROTHER FINANCE (U.K.) PLC

ドミノ事業拠点

DOMINO PRINTING SCIENCES PLC

DOMINO U.K. LTD.

POST JET SYSTEMS LTD.

DOMINO DEUTSCHLAND GmbH

DOMINO LASER GmbH

DOMINO SAS

DOMINO AMJET BV

GRAPH TECH AG

DOMINO PRINT AND APPLY AB

アジア・オセアニア

研究開発拠点

BROTHER SYSTEM TECHNOLOGY DEVELOPMENT (HANGZHOU) LTD.

生産拠点

TAIWAN BROTHER INDUSTRIES, LTD.

ZHUHAI BROTHER INDUSTRIES, CO., LTD.

BROTHER MACHINERY XIAN CO., LTD.

BROTHER INDUSTRIES (VIETNAM) LTD.

BROTHER TECHNOLOGY (SHENZHEN) LTD.

BROTHER INDUSTRIES SAIGON, LTD.

BROTHER INDUSTRIES (PHILIPPINES), INC.

BROTHER MACHINERY VIETNAM CO., LTD.

NISSEI GEAR MOTOR MFG. (CHANGZHOU) CO., LTD.

販売・サービス拠点

BROTHER INTERNATIONAL SINGAPORE PTE. LTD.

BROTHER INTERNATIONAL (HK) LTD.

BROTHER COMMERCIAL (THAILAND) LTD.

BROTHER MACHINERY (ASIA) LTD.

BROTHER INTERNATIONAL (MALAYSIA) SDN. BHD.

BROTHER INTERNATIONAL PHILIPPINES CORPORATION

BROTHER (CHINA) LTD.

BROTHER INTERNATIONAL (INDIA) PRIVATE LTD.

PT. BROTHER INTERNATIONAL SALES INDONESIA

BROTHER INTERNATIONAL TAIWAN LTD.

BROTHER INTERNATIONAL (VIETNAM) CO., LTD.

BROTHER INTERNATIONAL KOREA CO., LTD.

BROTHER MACHINERY SHANGHAI LTD.

BROTHER (ASIA) MYANMAR MACHINERY SERVICE CENTER LTD.

BROTHER INTERNATIONAL (AUST.) PTY. LTD.

BROTHER INTERNATIONAL (NZ) LTD.

BMB (SHANGHAI) INTERNATIONAL CORP.

NISSEI TRADING (SHANGHAI) CO., LTD.

ドミノ事業拠点

DOMINO CHINA LTD.

DOMINO PRINTING TECHNOLOGY LTD.

DOMINO KOREA PTE. LTD.

DOMINO PRINTECH INDIA LLP

DOMINO ASIA PTE. LTD.

中近東・アフリカ

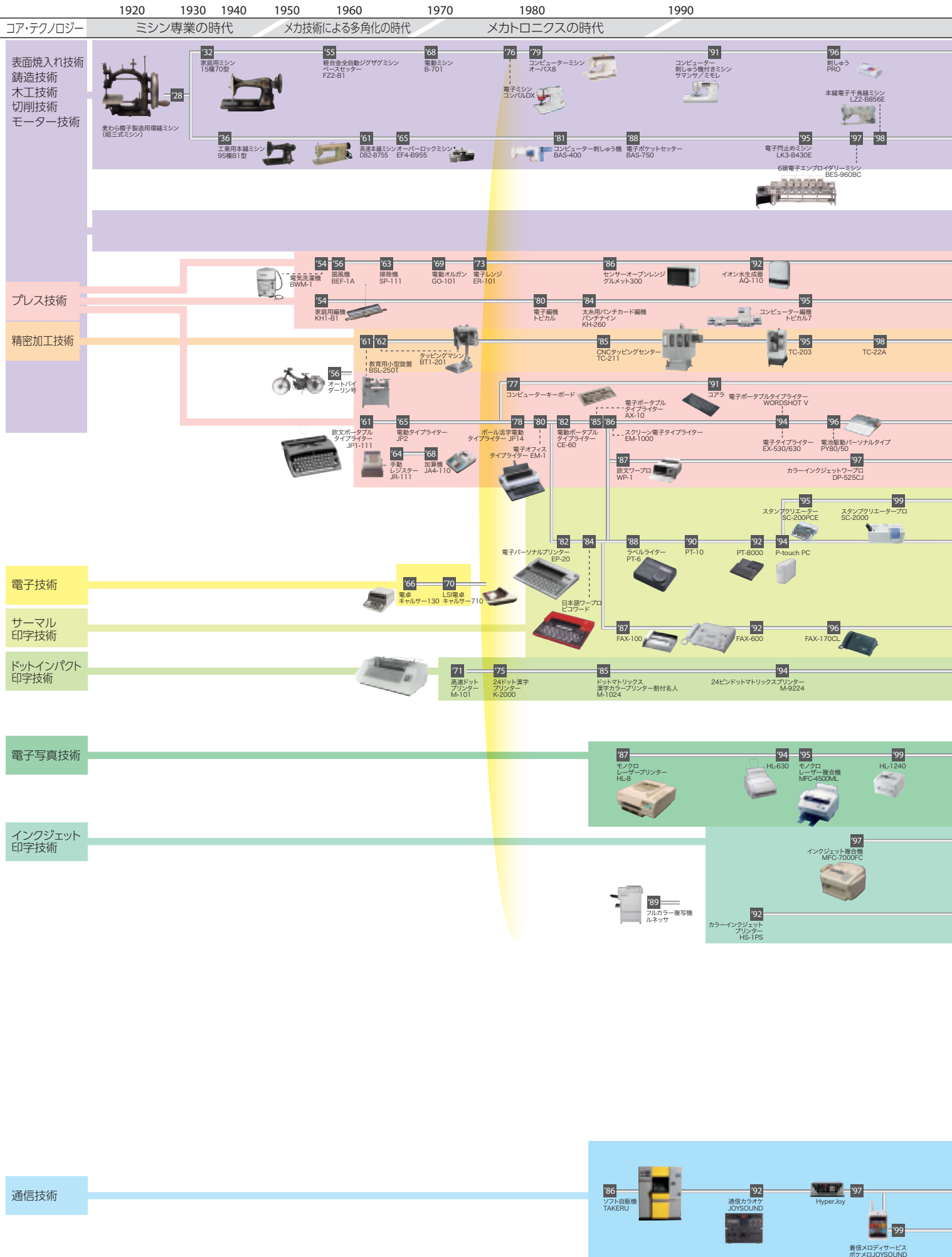
販売・サービス拠点

BROTHER INTERNATIONAL (GULF) FZE

BROTHER INTERNATIONAL (GULF) FZE (Turkey Branch)

BROTHER INTERNATIONAL S.A. (PTY) LTD.

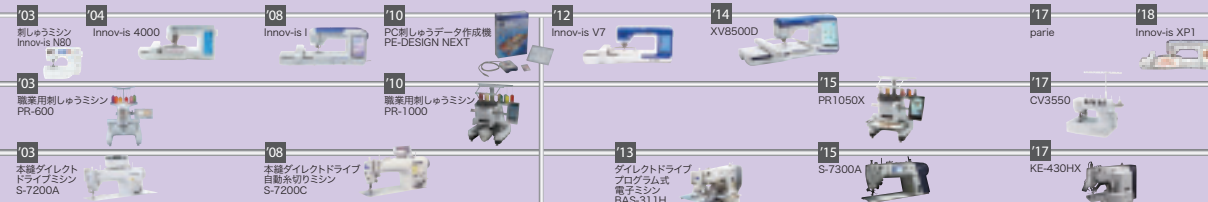
技術と製品の歴史



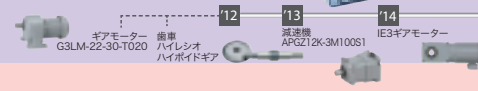
()内の製品カテゴリーは現在生産しておりません。

ネットワーク・コンテンツの時代

製品カテゴリー

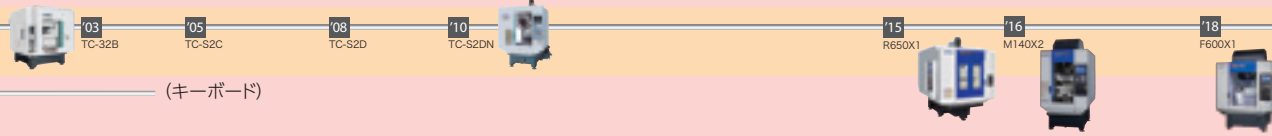


画像認識技術



(家電)

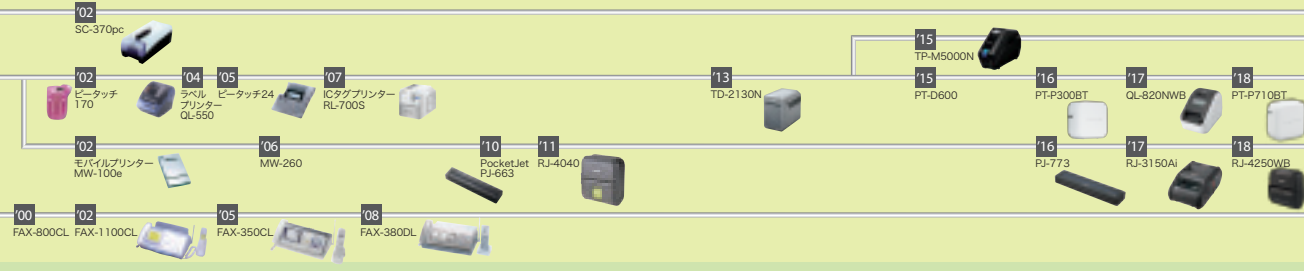
(編機)



(キーボード)

(タイプライター)

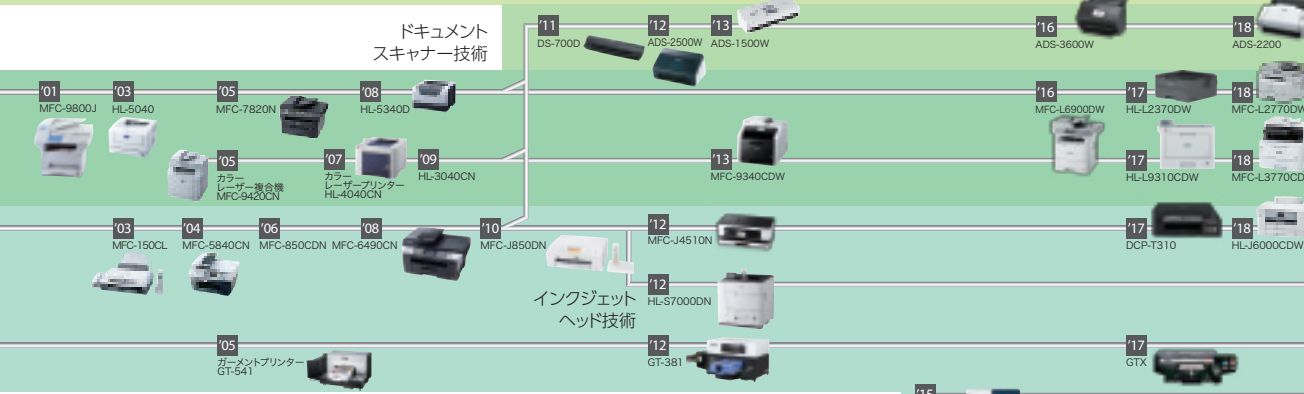
(ワープロ)



- スタンプ作成機
- オリジナルデザイン
- テープ作成機
- ラベルライター/ラベルプリンター
- モバイルプリンター
- ファクス

(ドットプリンター)

ドキュメントスキャナー技術

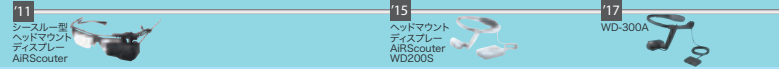


インクジェットヘッド技術

コーディング・マーキング(C&M)技術

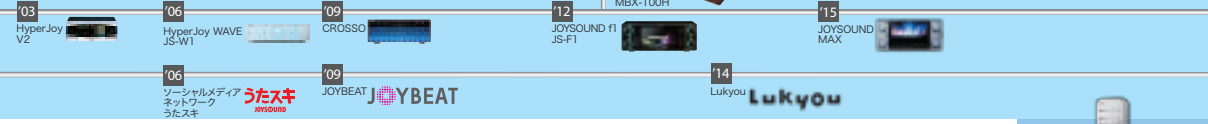


小型ディスプレイ技術



- スキャナー
- モノクロレーザープリンター/複合機
- カラーレーザープリンター/複合機*
- インクジェットプリンター/複合機
- 高速インクジェットプリンター
- ガーメントプリンター
- デジタル印刷機
- インクジェットC&M
- レーザーC&M
- サーマルトランスファーC&M
- ヘッドマウントディスプレイ

- Web会議システム
- 高級オルゴール
- 通信カラオケ装置
- コンテンツサービス



エネルギー関連技術



- 燃料電池
- ※ LED方式含む

編集方針

「ブラザーコミュニケーションレポート2019」は、私たちの事業活動の持続可能性について、より多くのステークホルダーの皆さまに正しくご理解をいただくことを目的としております。より詳細な情報は、ブラザーグループの以下の各サイトをご覧ください。

グループ企業情報

<https://global.brother/ja/corporate/>

株主／投資家情報

<https://global.brother/ja/investor/>

CSRの取り組み

<https://global.brother/ja/csr/>

環境への取り組み

<https://global.brother/ja/eco/>

環境スペシャルサイト「Brother Earth」

<https://www.brotherearth.com/ja/>

ブラザー工業株式会社

〒467-8561 名古屋市瑞穂区苗代町15番1号

URL: <https://global.brother/ja/>

発行／2019年6月



よりよい地球環境を、あなたとともに。
www.brotherearth.com